

富海地域住民アンケート報告書



令和4年2月

富海地域活性化協議会

目次

I 調査目的と方法	1
II 調査対象者の概要	1
(1) 全体回答者数（地区別）	1
(2) 全体回答者数（年代別）	2
(3) 全体回答者数（男女別）	2
(4) 全体回答者数（家族構成）	3
(5) 全体回答者数（仕事）（複数回答）	3
III 調査結果	4
1 日常的な交通手段（単一回答）	4
1-1 男女別	4
1-2 年代別	4
1-3 60歳代、70歳代、80歳代以上での利用	5
1-4 とのみ福祉号の利用	6
2 コミュニケーションツール（複数回答）	6
3 富海地域活性化協議会が発行した事業活動報告書やHPの閲覧状況（単一回答）	7
4 日常生活の不安・困っていること	8
4-1 年代別（複数回答）	8
4-2 年代別（上位5位）	9
4-3 男女別（上位5位）	11
4-4 不安・困っていること（項目8、9、10、11、14、16、地区別）	12
4-5 その他の自由記述から	14
5 満足度と重要度	16
5-1 満足度（5段階評価）	16
5-2 重要度（5段階評価）	17

5-3	満足度と重要度の関係図（マトリックス）	18
6	地域でやってみたい活動、これなら協力できる活動（複数回答）	20
6-1	年代別（複数回答）	20
6-2	年代ごとの活動上位8位.....	21
6-3	男女別にみた活動上位8位.....	24
7	富海の魅力（複数回答）	25
8	空き家等を活用し、新たな定住者を受け入れるべきだと思いますか？（単一回答）	26
9	富海の住みやすさ（単一回答）	27
9-1	年代別.....	27
9-2	男女別.....	28
10	富海地域に住み続けたいと思いますか（単一回答）	28
10-1	年代別	28
10-2	男女別	29
11	今後取り組みたいこと.....	30
参考資料	自由記述 富海小中学校中学部 生徒の意見から 要約	38
IV	全体総括（要約）	40
V	富海地域の活性化についてのまとめ.....	42
別紙	アンケート用紙	

※本調査は、やまぐち元気生活圏活力創出事業により実施し、
集計分析は、山口大学地域未来創生センター 教授（特命）五島淑子が担当した。
分析には、IBM SPSS Statistics 27 および KH coder を使用した。

富海地域住民アンケート報告書

I 調査目的と方法

富海地域に暮らす住民から、日頃思っていることや意見を収集し、富海を元気にする取り組みを検討する資料とする。調査対象者は、高校生以上全員を対象として、アンケートを実施した。なお、参考として、富海小中学校の中学部生徒にも実施した。

実施方法は、富海地域活性化協議会より調査の実施について各自治会長の了承を得たのち、各自治会の班長を通じて該当する世帯へ調査票を配布し回収した。調査は2021年9月5日から10月5日に実施。

18歳以上の人口は、アンケートを実施した2021年8月1日付の統計で、1,708人である。

なお参考までに、2021（令和3）年1月末現在、富海地域の世帯数は996世帯。人口1,869人。（男845人、女1,024人）（0-6歳39人、7-64歳859人、65歳以上971人）

II 調査対象者の概要

回答者 1,188名のうち、有効回答者数1,184名（富海中中学生含む）である。有効回答者のうち中学生（37人）を除いた数は、1,147名で、富海の18歳以上の人口1,708人であり、回収率67.2%である。

男女別の集計する場合は、男性314人、女性470人、不明400名であったため、不明の400名を除いて分析した。年代別の集計の場合は、年代不明の19名を除く1,165人で分析した。

（1）全体回答者数（地区別）

回答者の内訳を地区別に図1に示した。地区別にもっとも多いのは梶野245人（20.7%）、ついで曙156人（13.2%）、石原・野田（11.4%）である。中学生は37人（3.1%）である。

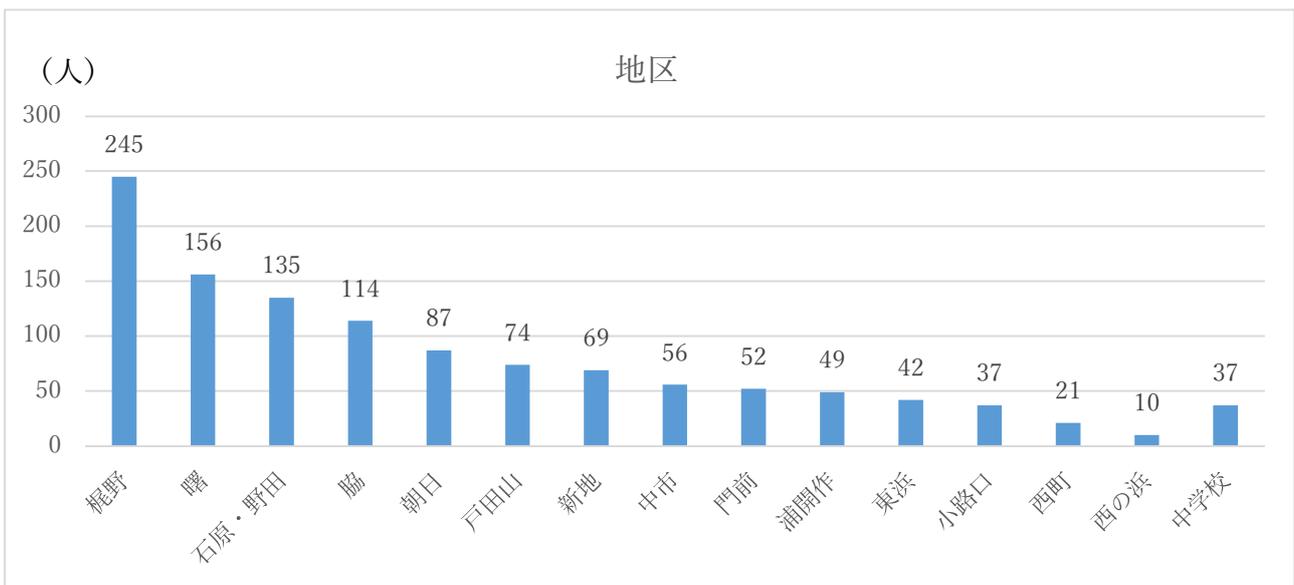


図1 地区別回答者数

(2) 全体回答者数（年代別）

回答者の内訳を年代別に図2に示した。70歳代が346人（29.2%）、80歳以上212人（17.9%）、60歳代206人（17.4%）で、60歳代以上が約3分の2を占めている。不明は19人（1.6%）である。なお中学生は16歳～19歳の人数に含めた。

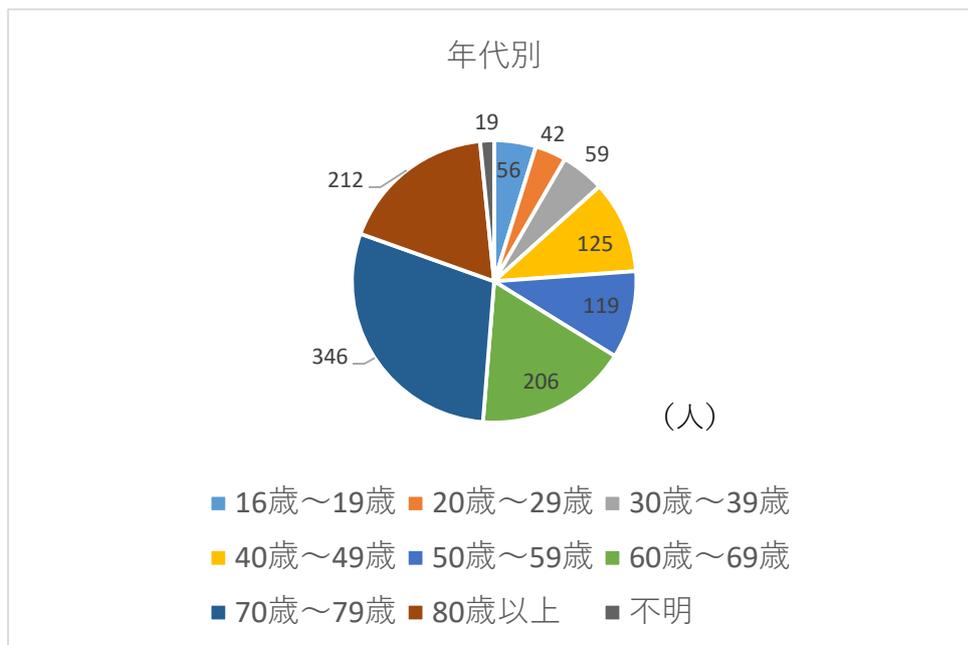


図2 年代別回答者数

(3) 全体回答者数（男女別）

回答者の内訳を性別に図3に示した。男性314人（26.5%）、女性470人（39.7%）、不明400名（33.8%）であった。不明が多いのは回答欄がわかりにくかったことによると考えられる。

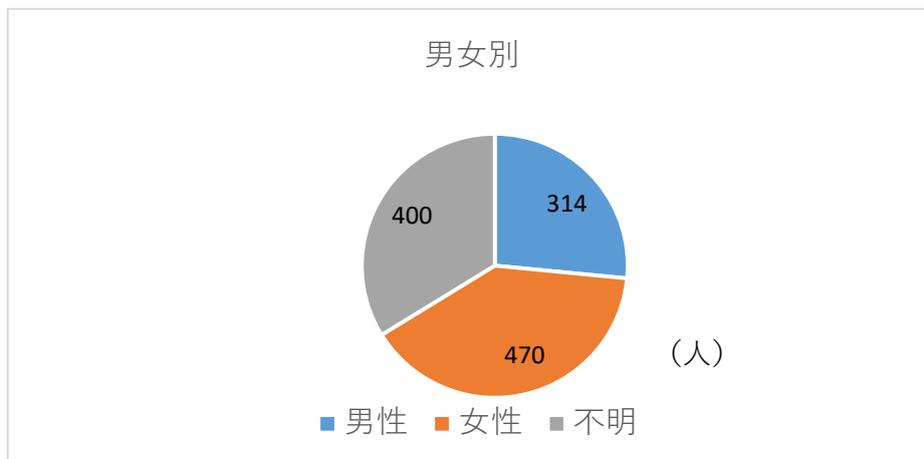


図3 男女別回答者数

(4) 全体回答者数（家族構成）

回答者の家族構成を図4に示した。親子2世代 480人（40.5%）、ついで、夫婦2人 370人（31.3%）、1人暮らし 166（14.0%）であった。

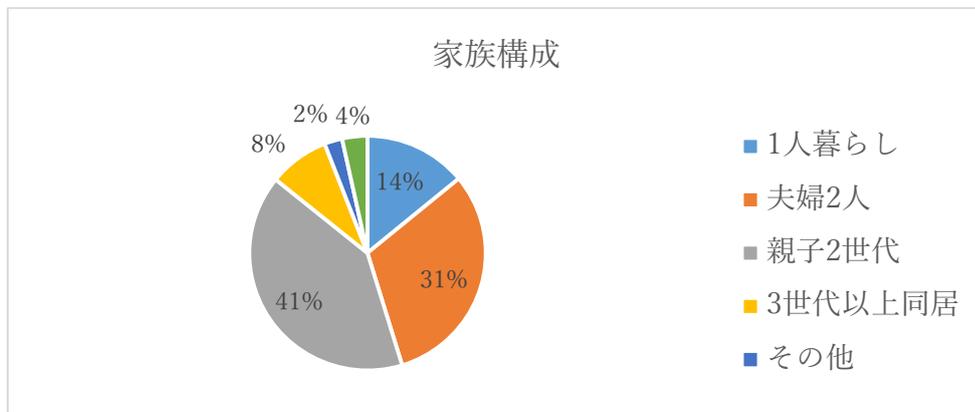


図4 家族構成別回答者

(5) 全体回答者数（仕事）（複数回答）

調査対象者の仕事を図5に示す。無職 396人がもっとも多い。ついで、専業主婦(夫含む)178人、会社員（平日勤務）134人である。なお、その他には中学生 37名を含んでいる。

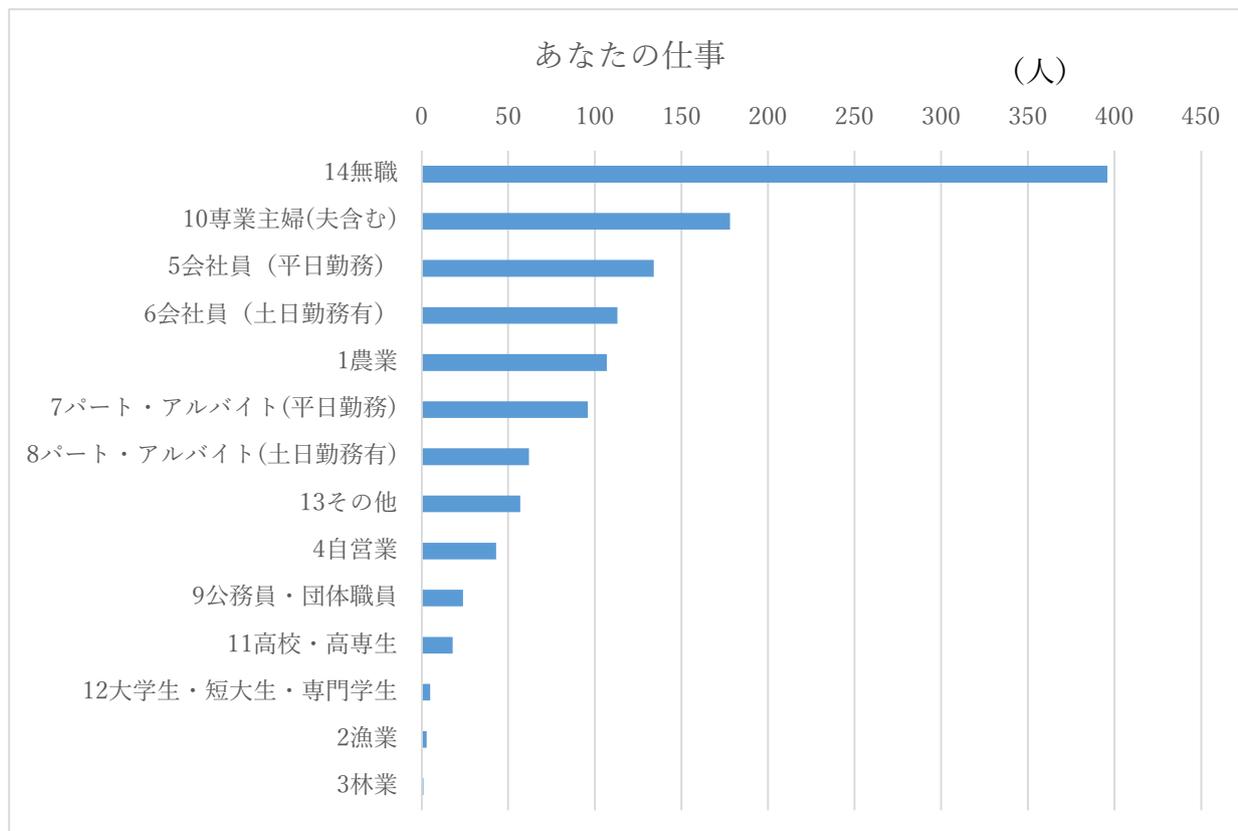


図5 仕事別回答者数

Ⅲ 調査結果

1 日常的な交通手段（単一回答）

1-1 男女別

日常的な交通手段を男女別に図6に示した。全体として、最も多いのは自家用車（運転）が多い。ついで自家用車（同乗）、電車である。男女別にみると、男女ともに自家用車（運転）が多く、自家用車（同乗）は女性に多い。電車、路線バス、とのみ福祉号など、公共交通機関を、女性が多く利用している。

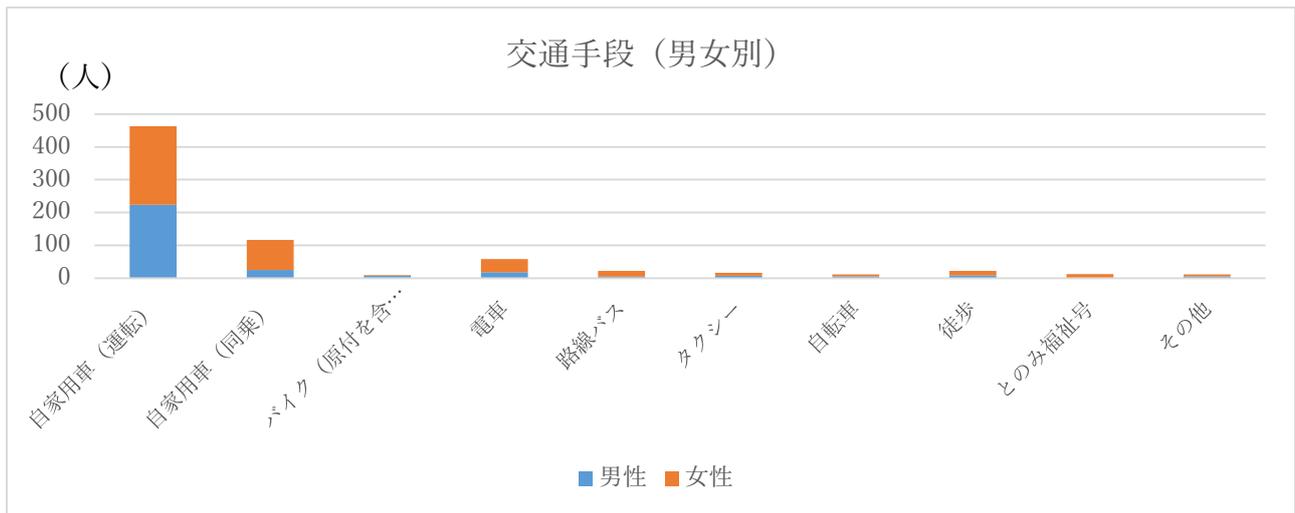


図6 日常的な交通手段（男女別）（単一回答）

1-2 年代別

日常的な交通手段を年代別に図7に示した。全体では、自家用車（運転）が多い。また、70歳代、80歳代に、自家用車（同乗）、電車、路線バスが多い。

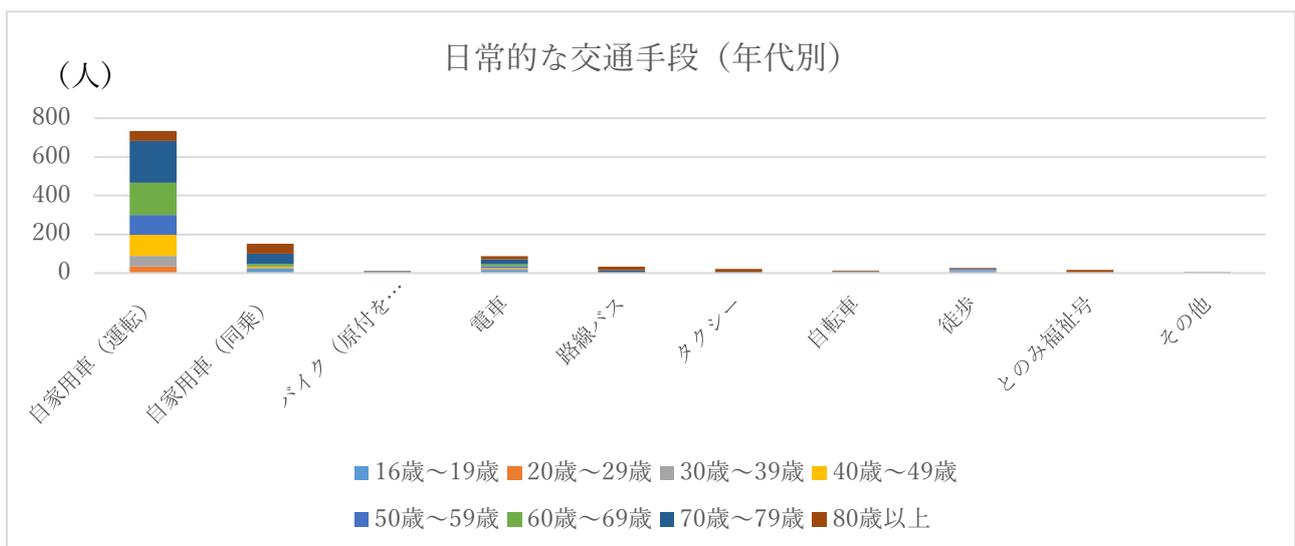


図7 日常的な交通手段（年代別）

1-3 60歳代、70歳代、80歳代以上での利用

60歳代、70歳代、80歳代について、より詳しく利用の状況を見るため、60歳代以上の交通手段の比率を図8に示した。

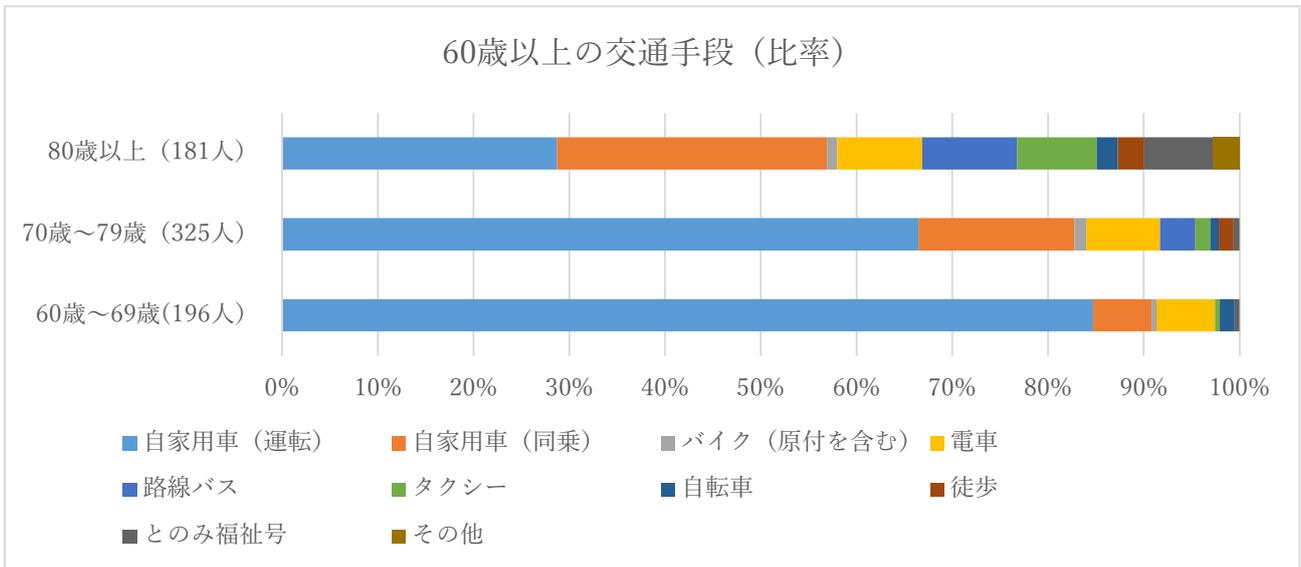


図8 日常的な交通手段（60歳代、70歳代、80歳以上、比率）

60歳代、70歳代、80歳以上の日常的な交通手段の上位4位は以下の通りである。

60歳代（196人）	1位 自家用車（運転）（84.7%）、	2位 自家用車（同乗）（6.1%）	3位 電車（6.1%）	4位 自転車（1.5%）
70歳代（325人）	1位 自家用車（運転）（66.5%）	2位 自家用車（同乗）（16.3%）	3位 電車（7.7%）	4位 路線バス（3.7%）
80歳以上（181人）	1位 自家用車（運転）（28.7%）	2位 自家用車（同乗）（28.2%）	3位 路線バス（9.9%）	4位 電車（8.8%）
		5位 とのみ福祉号（7.2%）		

60歳代では自家用車（運転）は85%を占めており、自家用車を運転していることがわかる。

70歳代では自家用車（運転）が67%に減少し、自家用車（同乗）、電車、路線バスの利用が増える。

80歳以上では、自家用車（運転）は29%に減少し、自動車（同乗）、路線バス、電車の利用、とのみ福祉号の利用が増える。

1-4 とのみ福祉号の利用

とのみ福祉号とは、山口県立総合医療センター・牟礼医療モール及び移動ルート上の店舗などへの交通手段である。とのみ福祉号を活用している人について述べる。

この問いは、日常的な交通手段について、「あてはまるもの1つに○」をいう回答方式であった。ところが複数回答しているケースがあった。全体の集計では、無効として集計している。ここでは、複数回答で無効とした回答を含めて、とのみ福祉号を利用すると回答した19名について、内訳をみる。

年代別にみると、60歳代 1人、70歳代 2人、80歳以上 16人

性別にみると、女性15人、不明4人、男性0人である。

このことから、とのみ福祉号の利用は80歳以上、女性に利用が多いことがわかった。

2 コミュニケーションツール（複数回答）

全体集計（年代別）（複数回答）を図9に示した。

使用しているコミュニケーションツールでは、メールがもっとも多い(626人)。ついでLINE(572人)である。SNSは217人で、オンライン会議ツール（Zoom, Messenger Rooms など）は76人に過ぎない。

一方使用していない人が285人おり、60歳代25人、70歳代115人、80歳以上123人と増加している。

40歳代まではLINEの利用が多い。10歳代はメールを利用していない。40歳代から70歳代ではメールの利用が多く、LINEも利用している。70歳代、80歳代では「使用せず」が増加する。特に80代以上は「使用せず」が多く、メール、LINEの利用も少ない。

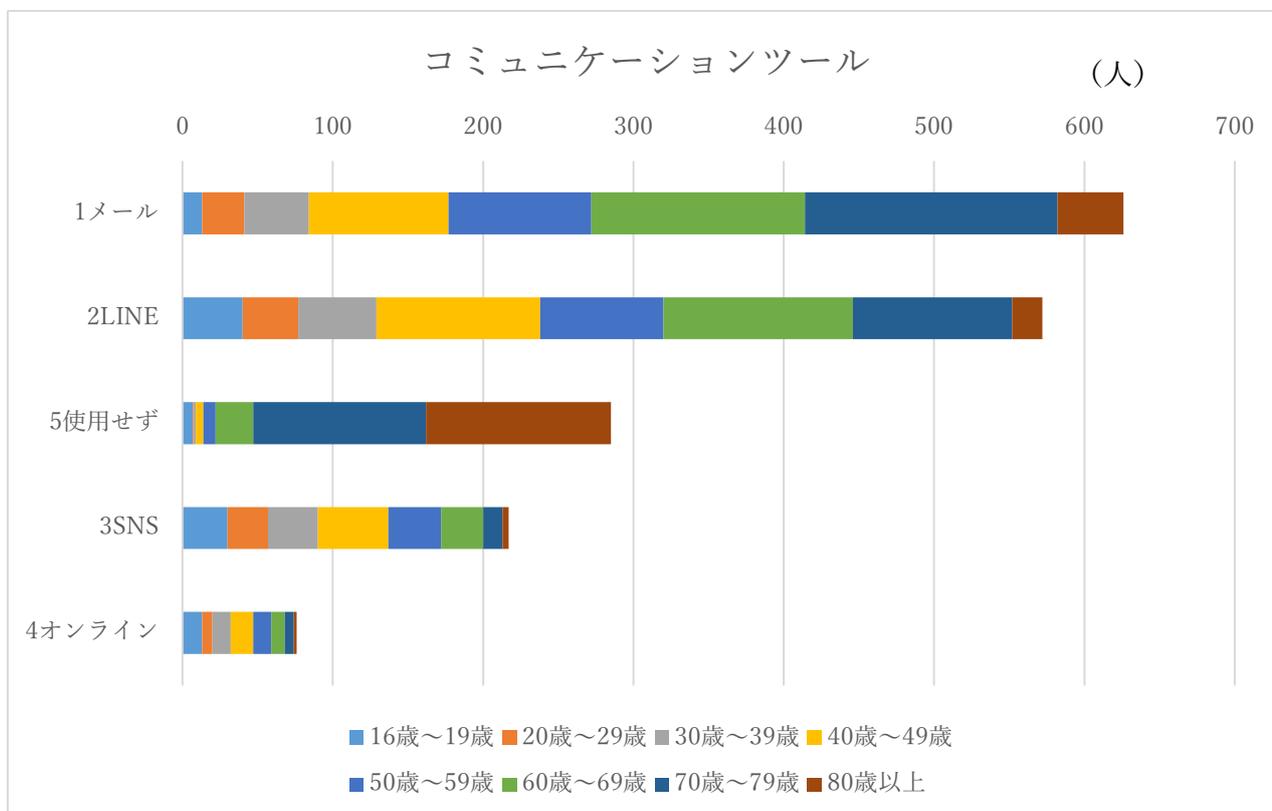


図9 コミュニケーションツール（年代別、複数回答） 1,165人

3 富海地域活性化協議会が発行した事業活動報告書や HP の閲覧状況（単一回答）

富海地域活性化協議会が発行した事業活動報告書や HP の閲覧状況を図 10 に示した。

10 歳代、20 歳代では、閲覧したことがあるのは 1 割である。30 歳代で徐々に増加し 70 歳代で最も閲覧しており 4 割強である。80 歳代で 4 割である。

70 歳代、80 歳以上は、は半数近くが閲覧しているが、30 歳代以下では、ほとんどの人が閲覧したことがない。

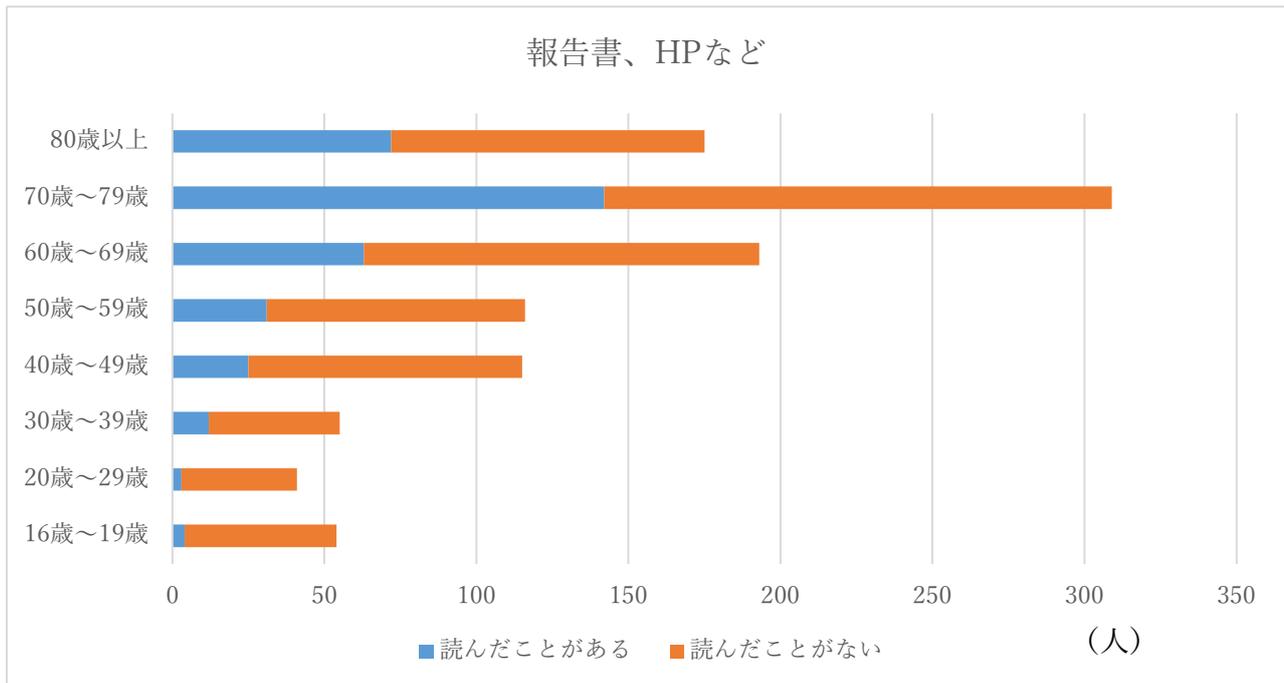


図 10 富海地域活性化協議会が発行した事業活動報告書や HP の閲覧状況

4 日常生活の不安・困っていること

4-1 年代別（複数回答）

日常生活の不安を年代別に重ねたグラフを図 11 に示した。不安・困っていることでは、「11 空き家が増えていること」(354 人)「14 有害鳥獣（イノシシ・サル・ヌートリアなど）の被害に関すること」(265 人)「10 街灯が少なく、夜間の移動に不安があること」(262 人)、「9 道路が狭く車（自家用車・救急車などの緊急車両）の通行がしにくいこと」(259 人) が上位に上がっている。

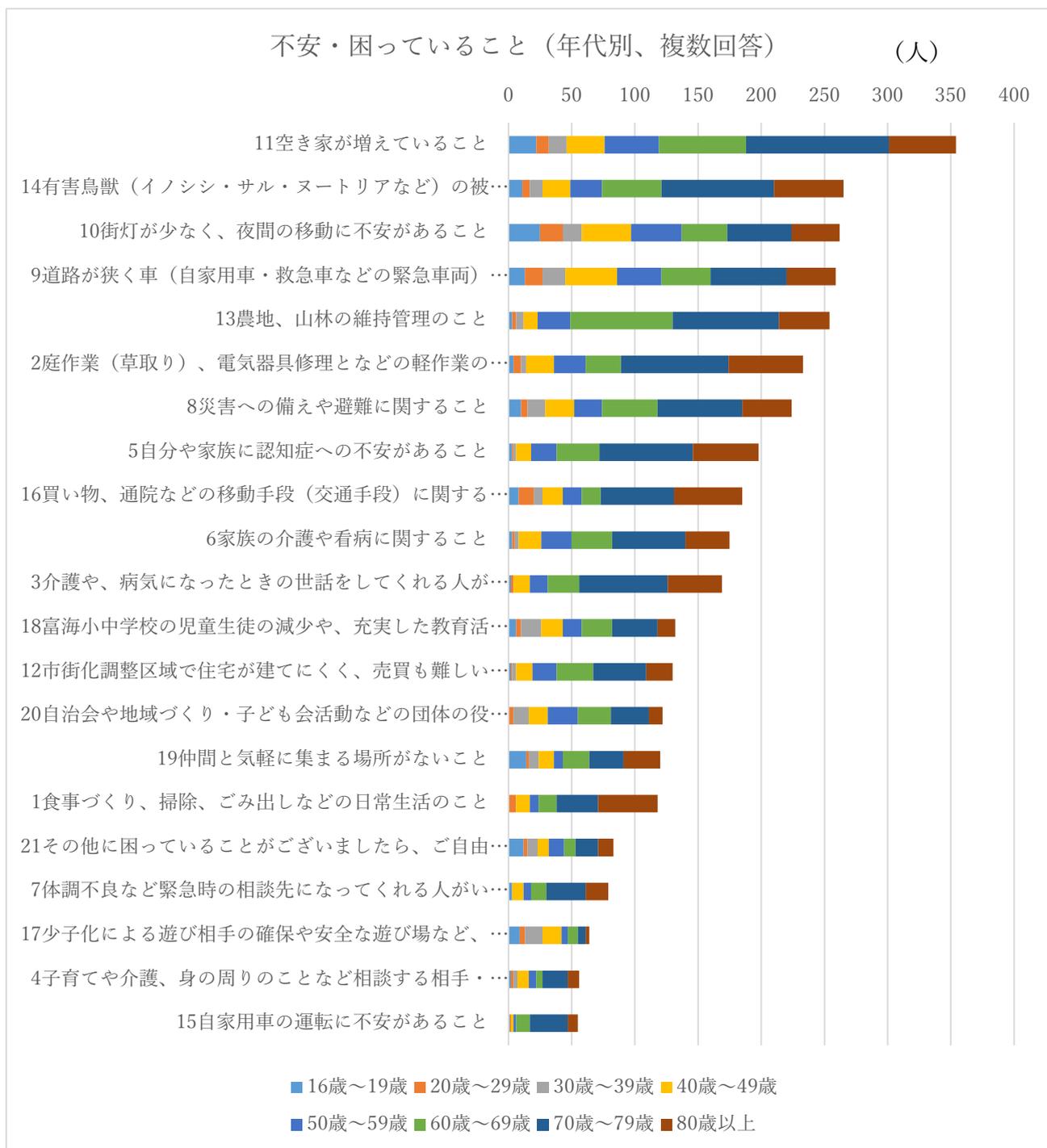
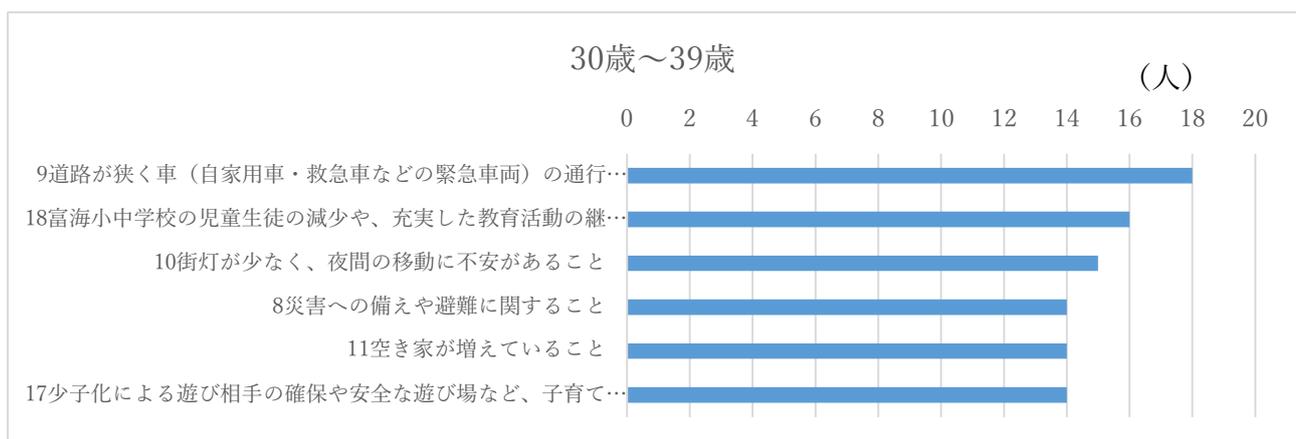
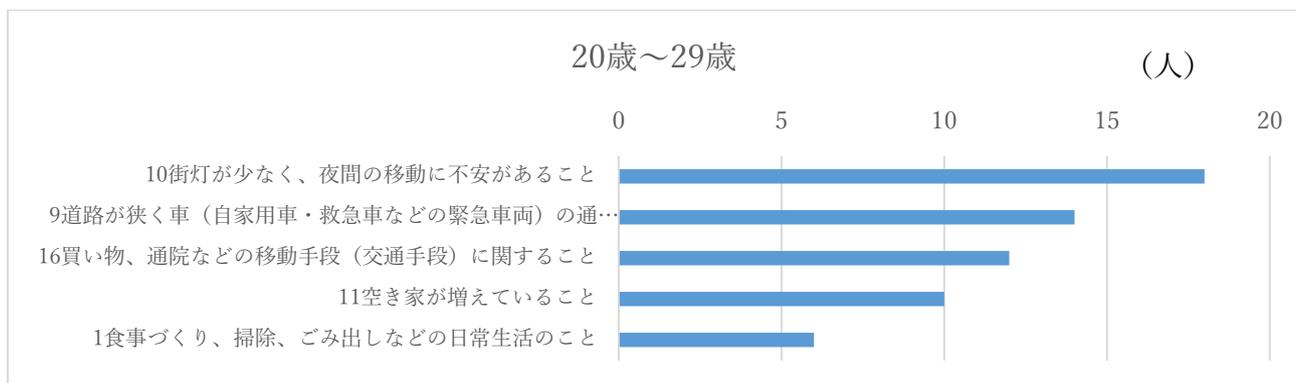
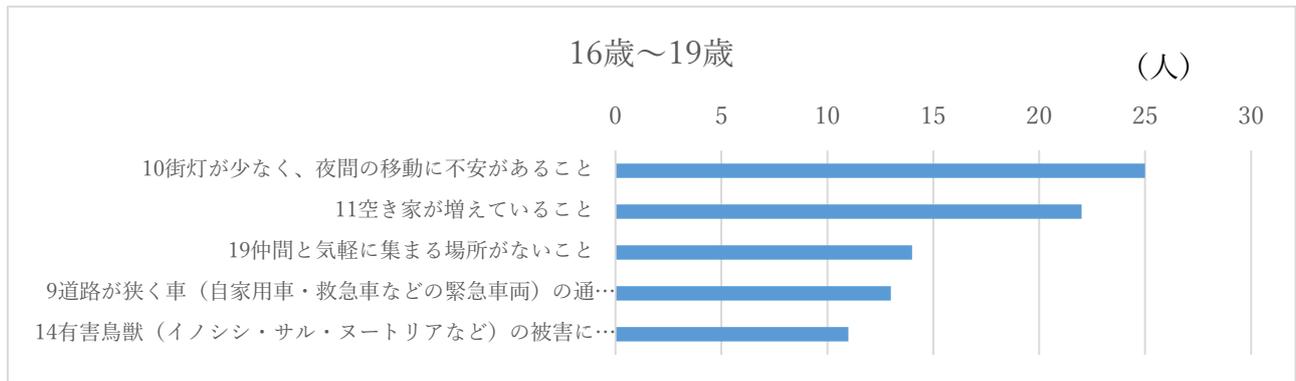
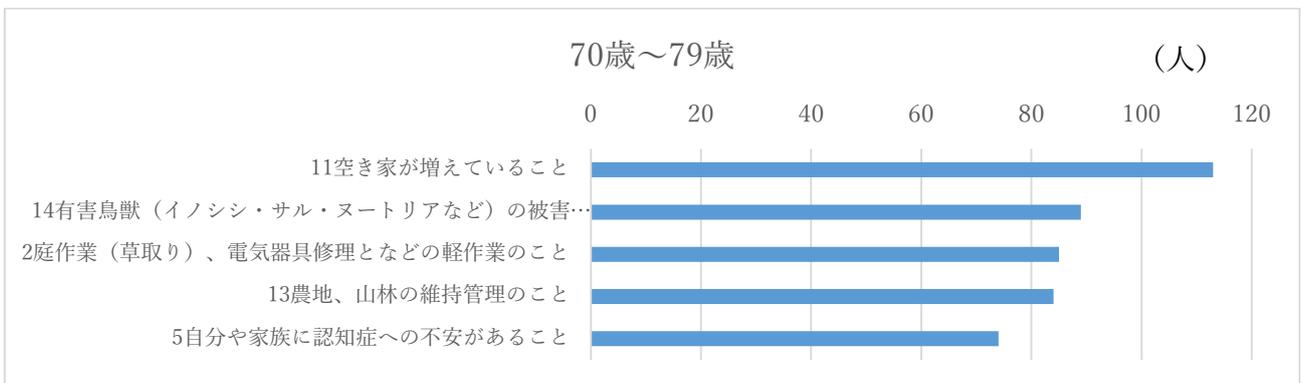
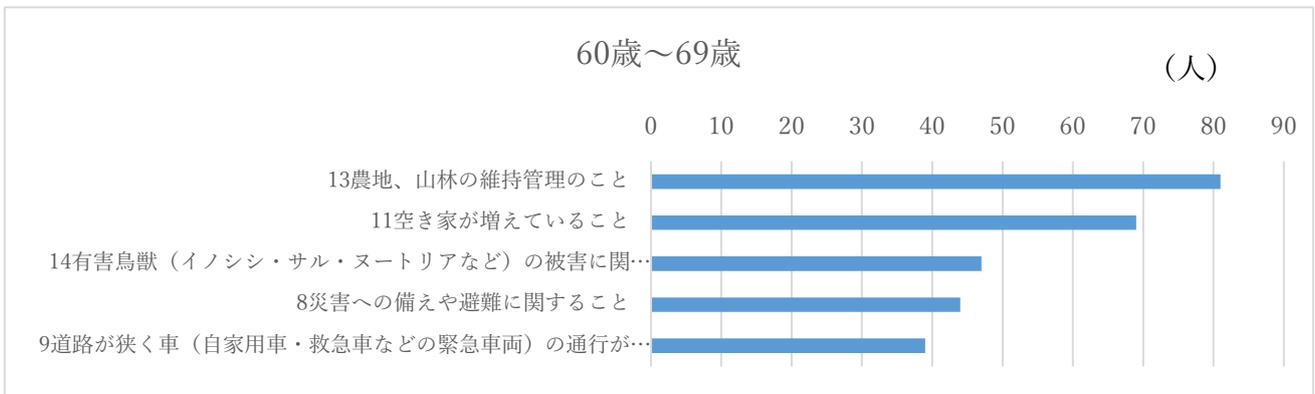
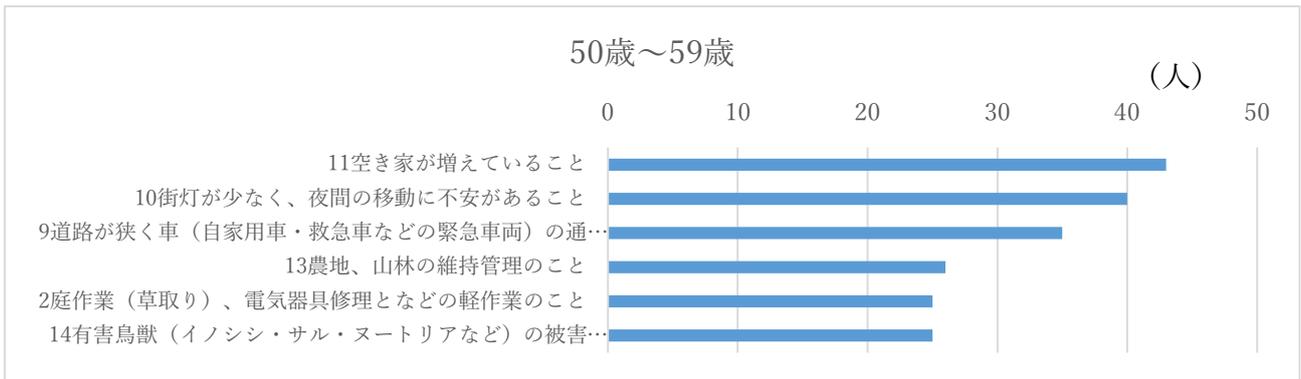
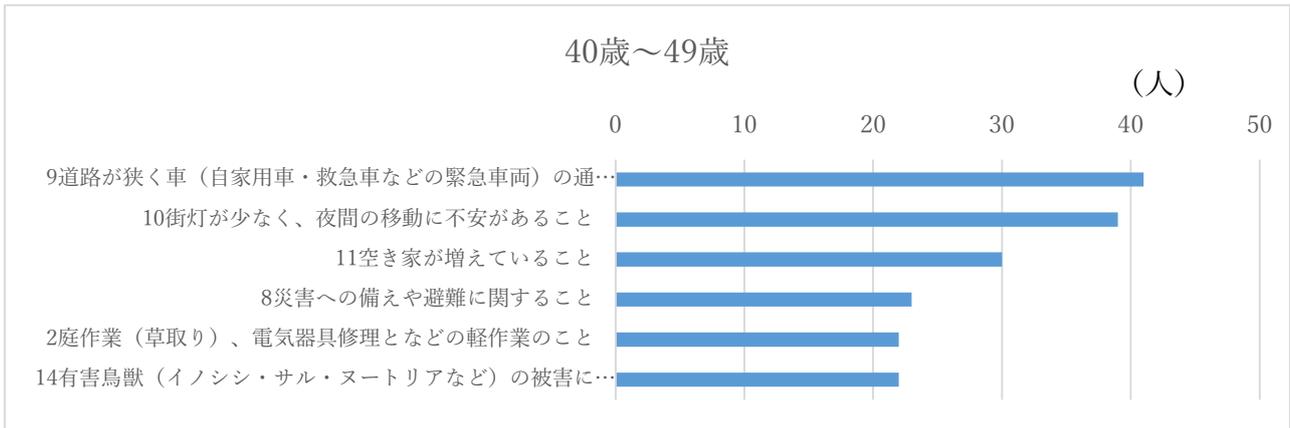


図 11 日常生活の不安・困っていること（年代別）

4-2 年代別（上位5位）

年代別に、不安・困っていることを、図12に示した。年代別にみた、困っていることは、全年代にわたって空き家の増加、道路が狭く車の通行が難しい、街灯が少なく夜間の移動、有害鳥獣の被害の割合が高い。また、70歳代以上では自分や家族の認知症と回答した割合が増加している。





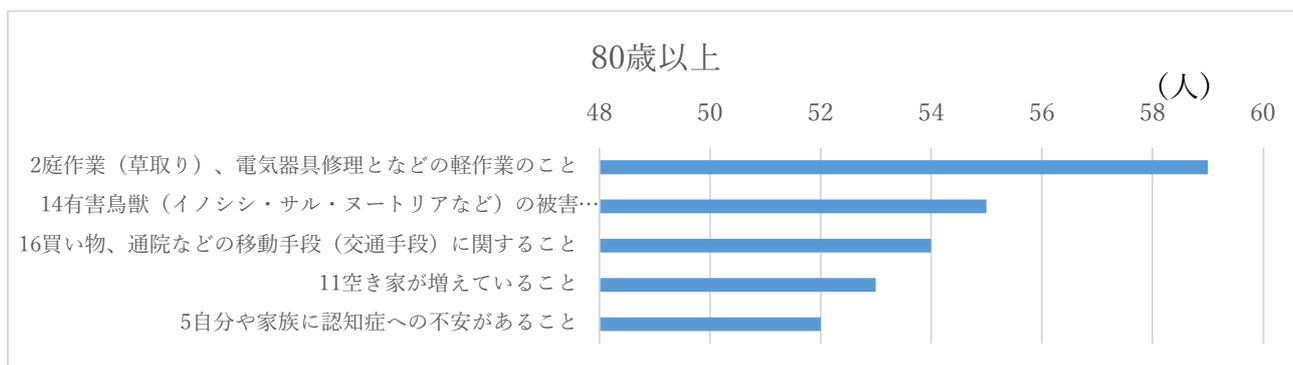


図 12 年代別に見た、困っていること（上位 5 位）

4-3 男女別（上位 5 位）

不安・困っていることを男女別に上位 5 位を図 13 に示した。

男女ともに、「11. 空き家が増えていること」が第 1 位であった。以下、男性は「14 有害鳥獣の被害」、「9 道路が狭く車の移動が困難」「3 農地・山林の維持管理」「10 街灯が少なく夜間の移動が不安」の順である。女性は 2 位「2 庭作業（草取り）、電気器具修理など軽作業」以下「10 街灯が少なく夜間の移動が不安」「3 農地・山林の維持管理」「8 災害への備えや避難に関すること」の順である。

なお、男女別に見て、差がある項目は、「2. 庭作業（草取り）、電気器具修理などの軽作業のこと」（ $p<0.01$ ）、「3. 介護や、病気になったときの世話をしてくれる人が身近にいないこと」（ $p<0.05$ ）「6. 家族の介護や看病に関すること」（ $p<0.05$ ）で、女性のほうが不安に感じていた。

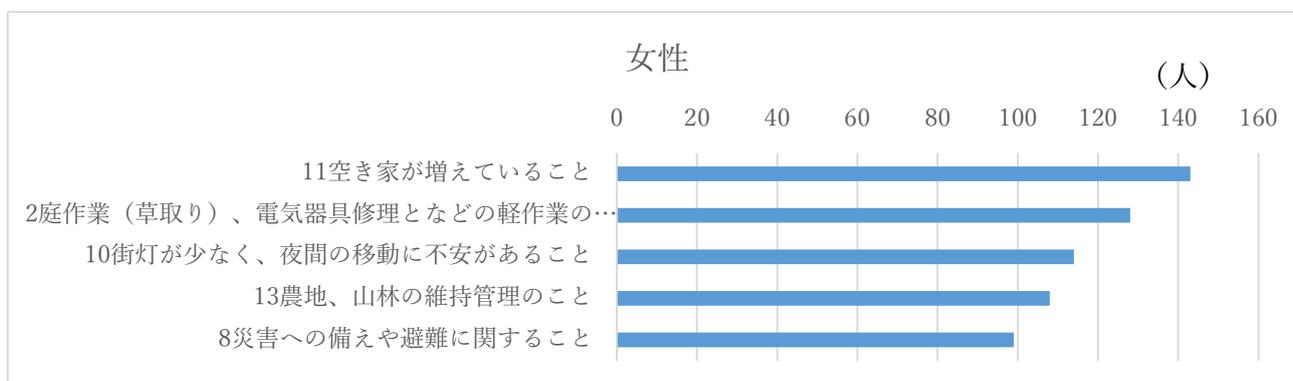
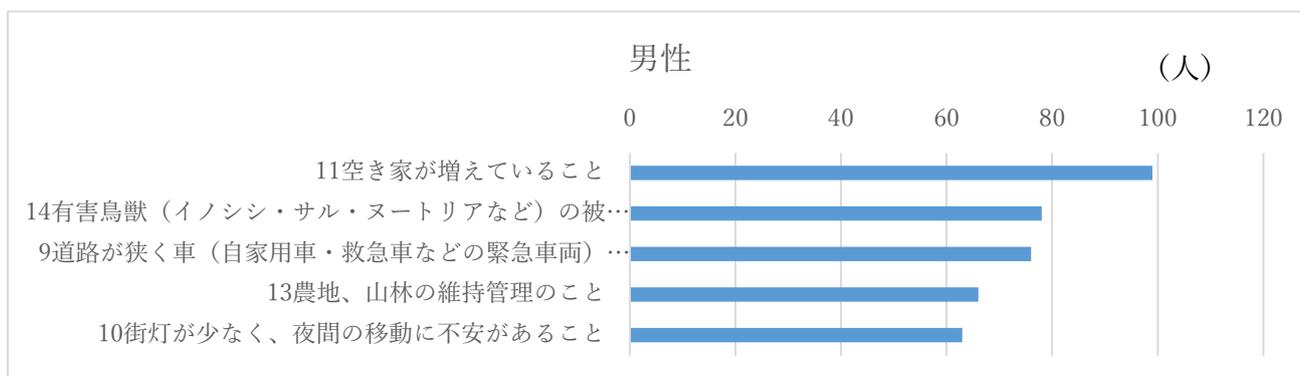
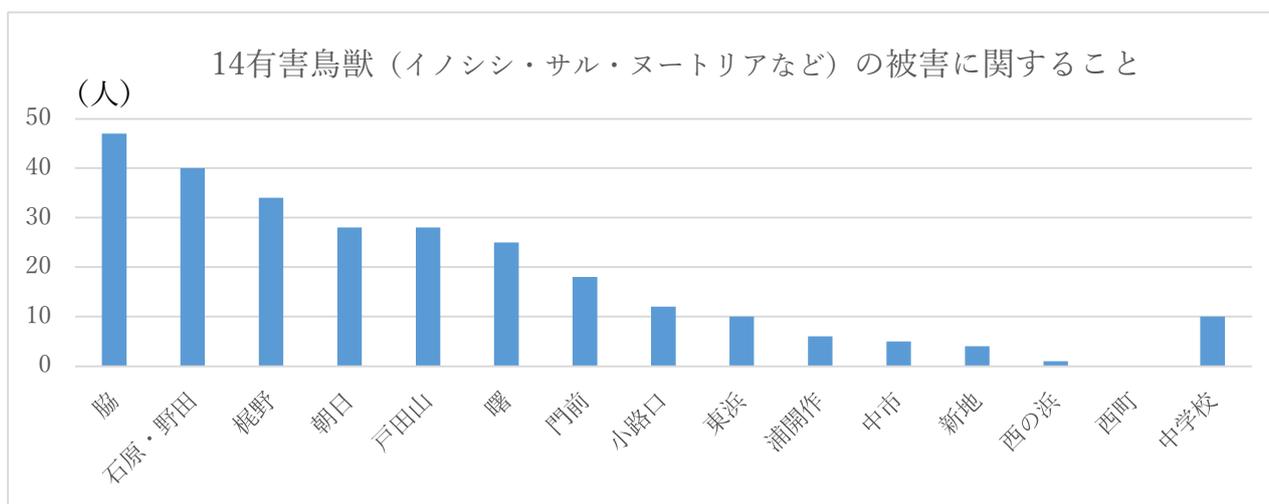
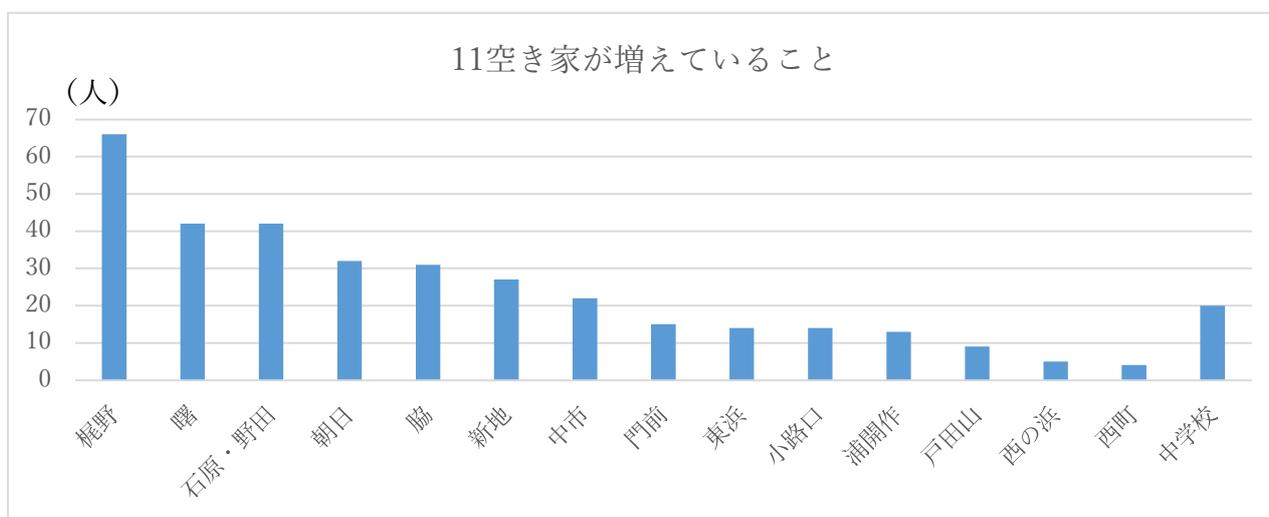


図 13 不安・困っていること（男女別、上位 5 位）

4-4 不安・困っていること（項目 8、9、10、11、14、16、地区別）

不安・困っていることの中から 6 項目選び、頻度の多い順に 11、14、10、9、8、16 の項目について、地域別に図 14 に示した。実数で示しており、地域ごとの人数（図 1）は考慮していない。

「11 空き家が増えていること」は、梶野、曙、石原・野田地区、「14 有害鳥獣（イノシシ・サル・ヌートリアなど）の被害に関すること」は、脇、石原・野田、梶野地区、「10 街灯が少なく、夜間の移動に不安があること」は、梶野、脇地区、「9 道路が狭く車（自家用車・救急車などの緊急車両）の通行がしにくいこと」は、梶野、曙地区、「8 災害への備えや避難に関すること」は、梶野、脇、石原・野田地区、「16 買い物、通院などの移動手段（交通手段）に関すること」は、梶野、曙地区で、回答者数が多かった。



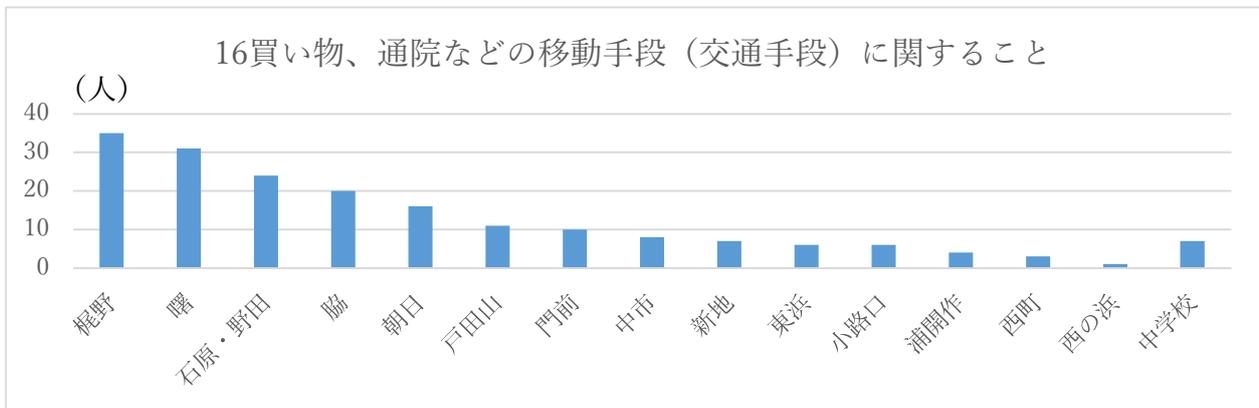
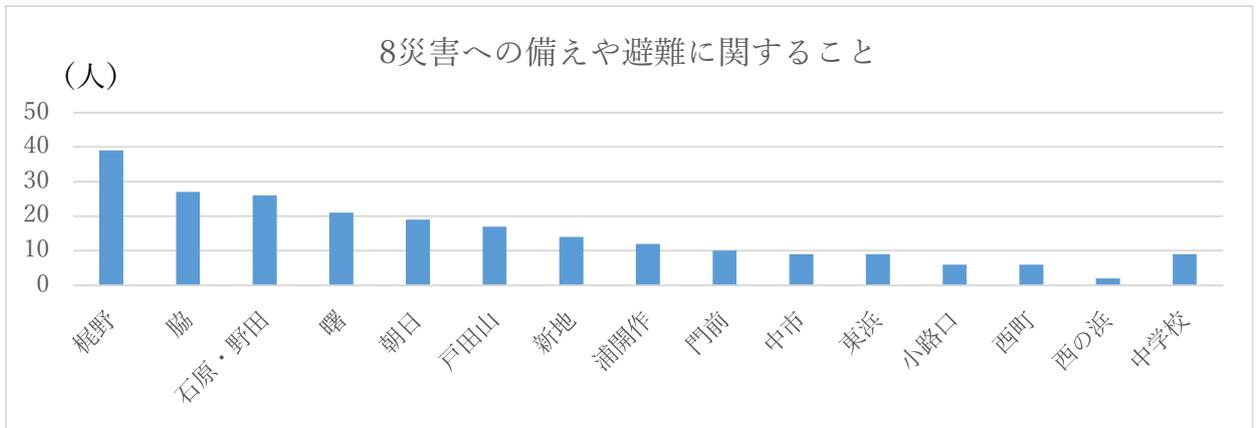
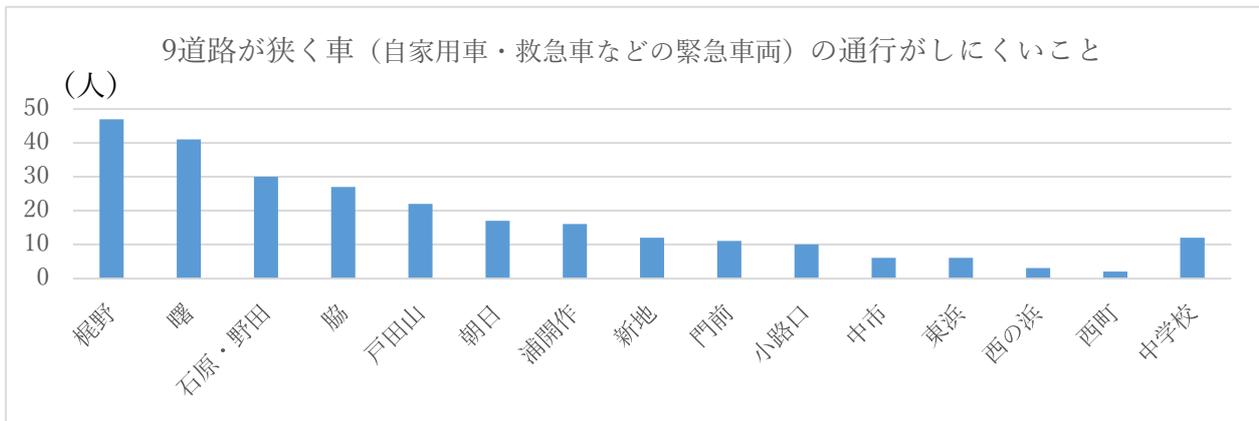
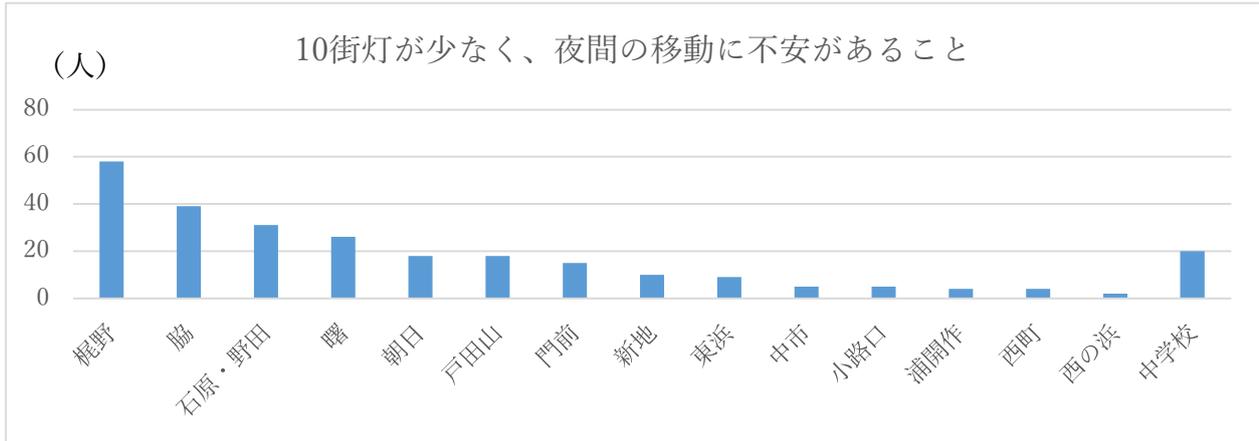


図 14 不安・困っていること（地区別）（項目 11、14、10、9、8、16）

2) 農林業に関すること

耕作放棄地が多い、耕作放棄地の管理（草刈り等）、休耕田の増加、水利権の見直し
調整区域のため開発ができない、大平山急傾斜地の伐採をしてほしい、農道の整備

3) 生活環境に関すること

空き家の増加（倒壊・雑草）、空き家バンクができないか、街灯がないので夜道が暗い
通信回線が不十分（光回線など）、上下水道の不十分、所有者不明、放置された家屋の存在
道が狭くて家の建て替えが困難

4) 子育て・教育に関すること

学校の役員が負担、役員を選出方法、通学路の安全（交通量が多い、道が狭い）
学用品の購入は学校で一括できるといい、遊び場が少ない、子育て家庭への配慮がほしい

5) 環境保全に関すること

雑草や雑木が多い、公園の草刈り・公園のトイレ掃除など、地区の清掃が大変、野良猫が多い
資源ゴミの回収場所が多い、駅や公園の公衆トイレの清掃が不十分、海岸の清掃が不十分
イノシシなどの野生動物による被害、野焼きやゴミ焼きが多く迷惑、不審者の存在
ゴミ・タバコの散乱や鳥の糞が多い、河川への転落防止の整備があるといい

6) 生活に関すること

コンビニ・スーパーがない、病院がない、銀行・ATMがほしい、ガソリンスタンドがない
とのみ福祉号の充実（増便・防府駅まで）してほしい、災害時の避難場所が遠い
コロナ禍による収入減で生活が苦しい、支所に相談所を設置してほしい

7) 自治会・地域活動に関すること

地域と交流が少ない、公園の清掃当番が負担、地区外から来た人に優しく親切にしてほしい
地域の行事やスポーツ大会、役員の決め方を見直してほしい

8) 交通安全・移動手段に関すること

道路が狭い、緊急車両が通行できない、信号機をつけてほしい（応答式）
通勤時間帯の交通量が多い、ドライバーのマナーが悪い、市道を整備してほしい
路上駐車が多い、富海駅の整備（出入口・スロープ・階段）してほしい
駅舎をきれいにしてほしい、道路の傷み・穴が多い、JRやバスの発着便が少ない

9) その他

公民館の放送が聞こえにくい、夜の海岸がうるさい、若い世代が住みにくい
富海地域をまとめるリーダーが不在、いろいろな情報の周知をしてほしい
ウォーキングのマナー（一列で）を守ってほしい

5 満足度と重要度

5-1 満足度（5段階評価）

満足度について5段階で回答した結果を、「不満」と「やや不満」の合計の高い順に図16に示した。「不満」「やや不満」の合計が大きい項目は満足度が低く、住民からの要望となる項目である。「13 有害鳥獣被害への対応について」「12 農地・山林などの維持管理について」「24 インターネット回線の通信速度について」はとくに不満度が高い。インターネット回線に関しては、不満の回答が多いことは特徴である。4番目は「14 買い物・通院など、移動支援活動について」であり、5番目の「2 花の植栽・側溝清掃など、地域の美化・環境保全について」は、不満な人も多いが、満足している人も多い項目であった。一方、満足度が高いのは、「21 広報誌（社協だより、学校だより）などの発行や、回覧板など、情報提供について」であった。

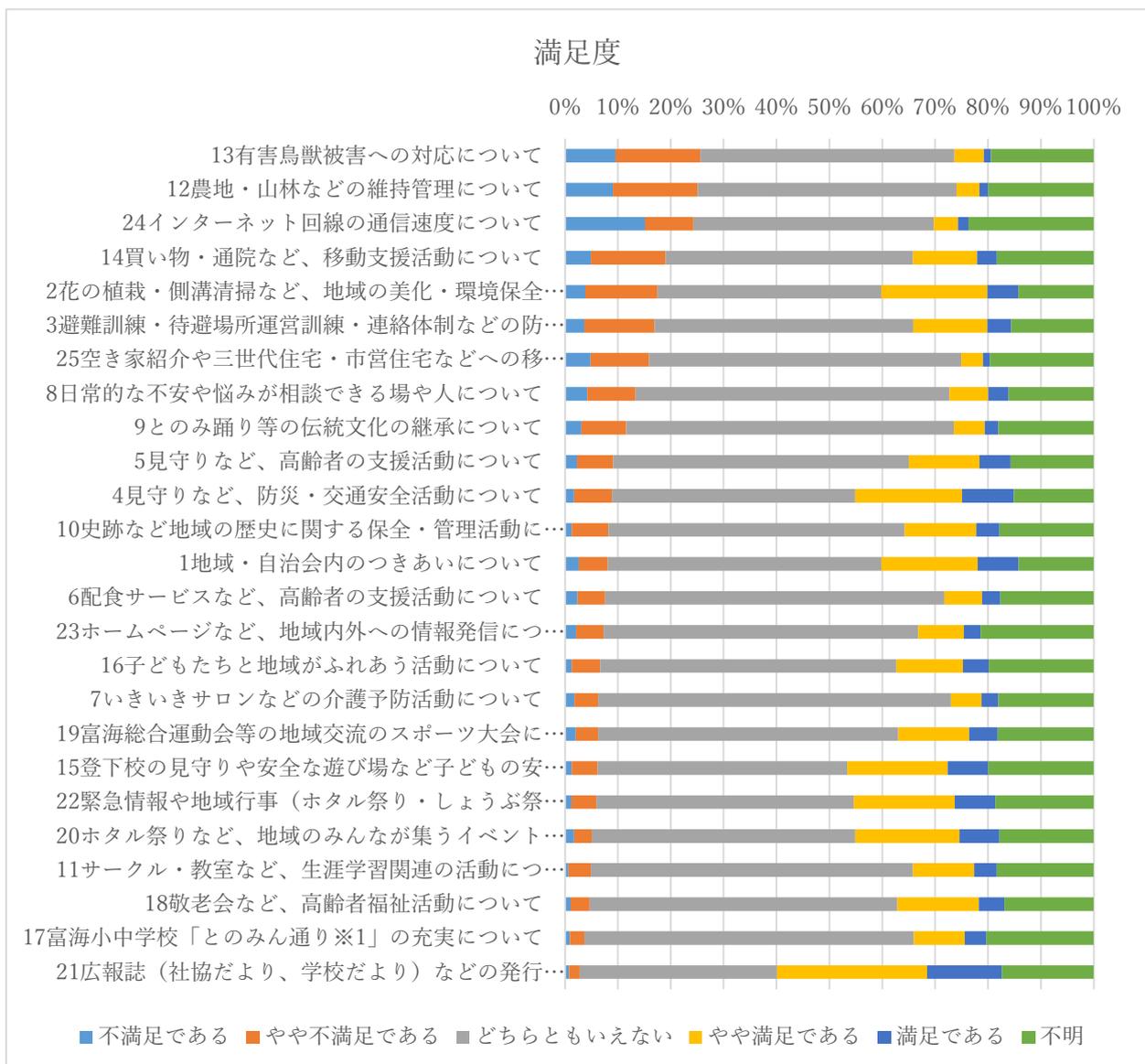


図16 満足度

5-2 重要度（5段階評価）

重要度について5段階で回答した結果を、「重要である」と「やや重要である」の合計の大きい順に図17に示した。「重要である」と「やや重要である」の合計が大きい項目は重要度が高く、住民からの要望項目である。重要度が高いのは、「3 避難訓練・待避場所運営訓練・連絡体制などの防災活動について」「4 見守りなど、防災・交通安全活動について」「5 見守りなど、高齢者の支援活動について」「15 登下校の見守りや安全な遊び場など子どもの安全を支える活動について」「14 買い物・通院など、移動支援活動について」が重要であると考えられている。「24 インターネット回線の通信速度について」は、「重要である」が多い項目である。

一方、重要度が低いのは、「9 とのみ踊り等の伝統文化の継承について」「23 ホームページなど、地域内外への情報発信について」であった。

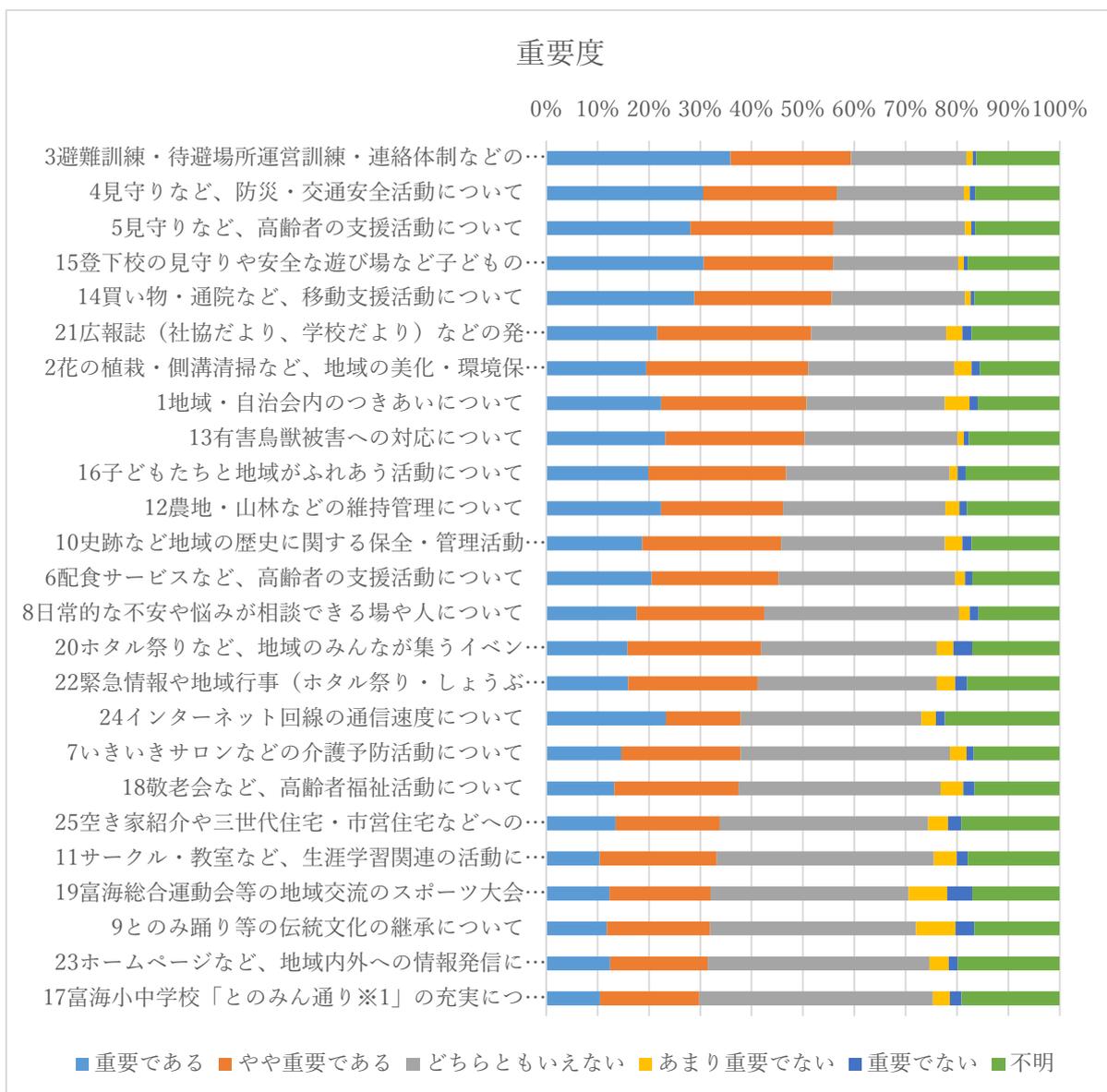


図 17 重要度

5-3 満足度と重要度の関係図（マトリックス）

満足度、重要度で不明と回答したものを除き、それぞれ平均値を表1に示した。満足度を横軸に、重要度を縦軸にして、図18に示した。満足度5段階（(1 不満足である 2 やや不満足である 3 どちらともいえない 4 やや満足である 5 満足である)、重要度5段階（1 重要でない 2 あまり重要でない 3 どちらともいえない 4 やや重要である 5 重要である）で評点をつけた。表1は、満足度、重要度の平均値であり、図18は満足度、重要度の平均値をグラフに示したものである。

満足度は、「2 やや不満足である」から「4 やや満足である」に位置している。満足度の平均値は、「21. 広報誌などの情報提供」が最も高く、次に「4.見守りなど防災・交通安全」「15.登下校の見守り」「20.ホタル祭りなどのイベント」「22.緊急情報や地域行事の情報発信」となっている。逆に最も満足度の平均値が低いのは、「24.インターネット回線の速度」「12.農地・山林などの維持管理」「13.有害鳥獣被害への対応」である。

一方、重要度の平均は、「3 どちらともいえない」から「5 重要である」の間に位置している。とくに、「3.避難訓練等の防災活動」が最も高く、次に「4.見守りなど防災・交通安全」、「15.登下校の見守り」、「5.見守りなど高齢者の支援活動」、「14.買い物、通院などの移動支援」となっていた。

表1 満足度と重要度の平均値および差

番号	項目	満足度 (a)	重要度 (b)	差 (b-a)
13	有害鳥獣被害への対応について	2.67	3.85	1.2
24	インターネット回線の通信速度について	2.60	3.71	1.1
12	農地・山林などの維持管理について	2.67	3.77	1.1
3	避難訓練・待避場所運営訓練・連絡体制などの防災活動について	3.03	4.11	1.1
14	買い物・通院など、移動支援活動について	2.95	3.98	1.0
5	見守りなど、高齢者の支援活動について	3.16	3.97	0.8
6	配食サービスなど、高齢者の支援活動について	3.05	3.74	0.7
8	日常的な不安や悩みが相談できる場や人について	2.97	3.65	0.7
15	登下校の見守りや安全な遊び場など子どもの安全を支える活動について	3.34	4.02	0.7
4	見守りなど、防災・交通安全活動について	3.34	4.01	0.7
25	空き家紹介や三世帯住宅・市営住宅などへの移住促進について	2.83	3.47	0.6
2	花の植栽・側溝清掃など、地域の美化・環境保全について	3.12	3.76	0.6
16	子どもたちと地域がふれあう活動について	3.18	3.76	0.6
10	史跡など地域の歴史に関する保全・管理活動について	3.16	3.69	0.5
7	いきいきサロンなどの介護予防活動について	3.05	3.56	0.5
1	地域・自治会内のつきあいについて	3.27	3.77	0.5
9	とのみ踊り等の伝統文化の継承について	2.95	3.35	0.4
23	ホームページなど、地域内外への情報発信について	3.07	3.46	0.4
18	敬老会など、高齢者福祉活動について	3.23	3.50	0.3

22	緊急情報や地域行事（ホタル祭り・しょうぶ祭りなど）の情報発信について	3.34	3.60	0.3
11	サークル・教室など、生涯学習関連の活動について	3.18	3.42	0.2
17	富海小中学校「とのみん通り※1」の充実について	3.17	3.40	0.2
20	ホタル祭りなど、地域のみんが集うイベントについて	3.34	3.57	0.2
21	広報誌（社協だより、学校だより）などの発行や、回覧板など、情報提供について	3.64	3.80	0.2
19	富海総合運動会等の地域交流のスポーツ大会について	3.20	3.33	0.1

※1 とのみん通りとは、旧富海中学校の空き教室を利用した、民具、サークル作品、子どもの作品の展示や地域との交流を行うスペース。

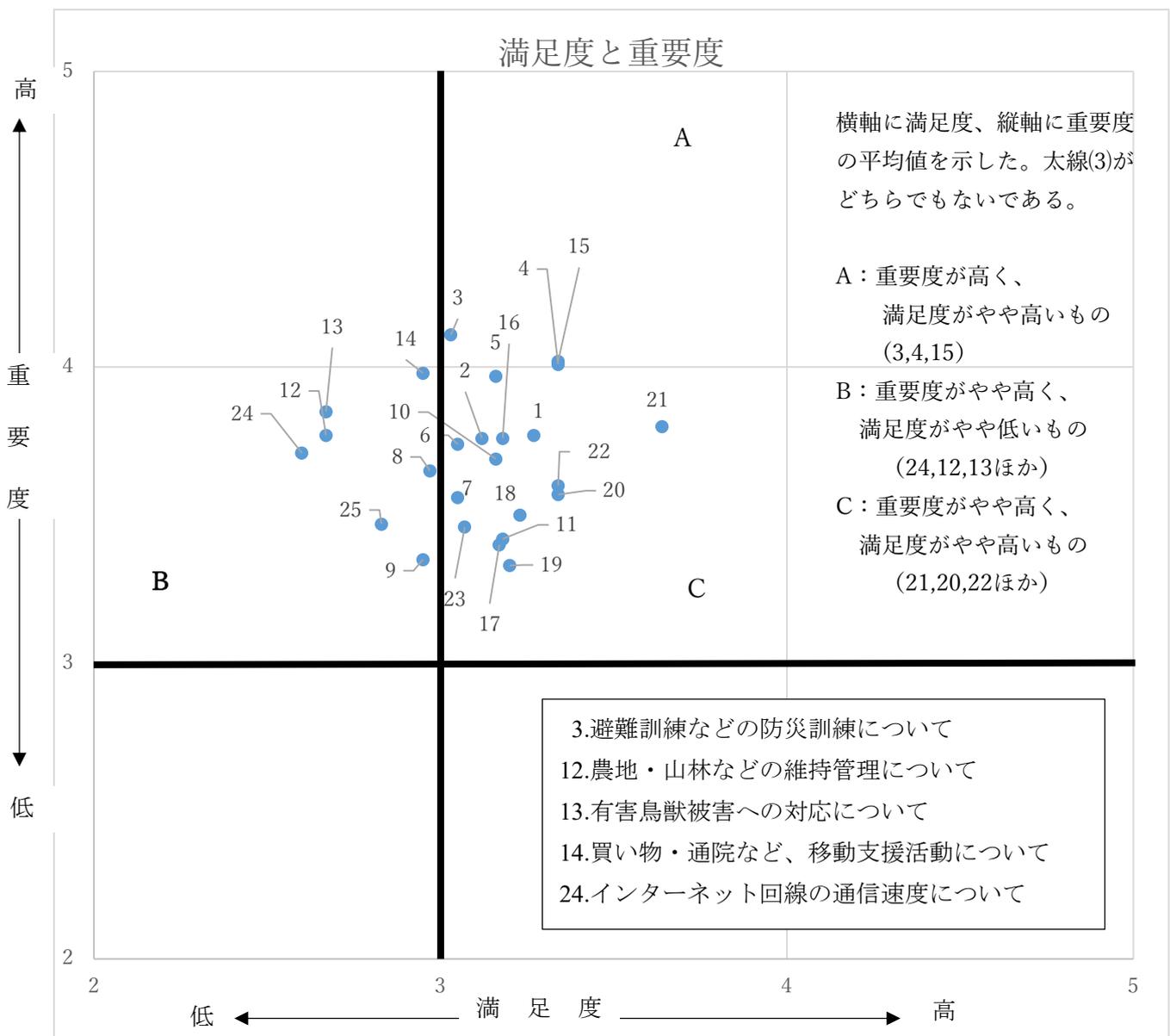


図 18 満足度と重要度の関係図（マトリックス）

重要度と満足度の差が大きいものは、重要度に比較して、現状が満足できる状況ではないと言える。

「3.避難訓練などの防災活動」、「12.農地・山林などの維持管理」、「13.有害鳥獣被害への対応」、「14.買い物・通院など、移動支援活動」、「24.インターネット回線の通信速度」があり、これらは、今後取り組むことが重要であるといえる（表1の差（b-a）が1.0以上のものを抽出）。

6 地域でやってみたい活動、これなら協力できる活動（複数回答）

6-1 年代別（複数回答）

地域でやってみたい活動、これなら協力できる活動（複数回答）を図19に示した。「地域でやってみたい活動、これなら協力できる活動」で、最も多いのは、「1 草刈り・河川清掃など環境保全活動」であり、ついで「3 運動会・ホテル祭りなど住民が集うイベント」「2 避難訓練などの消防・防災活動」「11 ご近所の清掃やごみ出し等の手伝い」「6 サークル・教室など、生涯学習や健康づくり」であった。

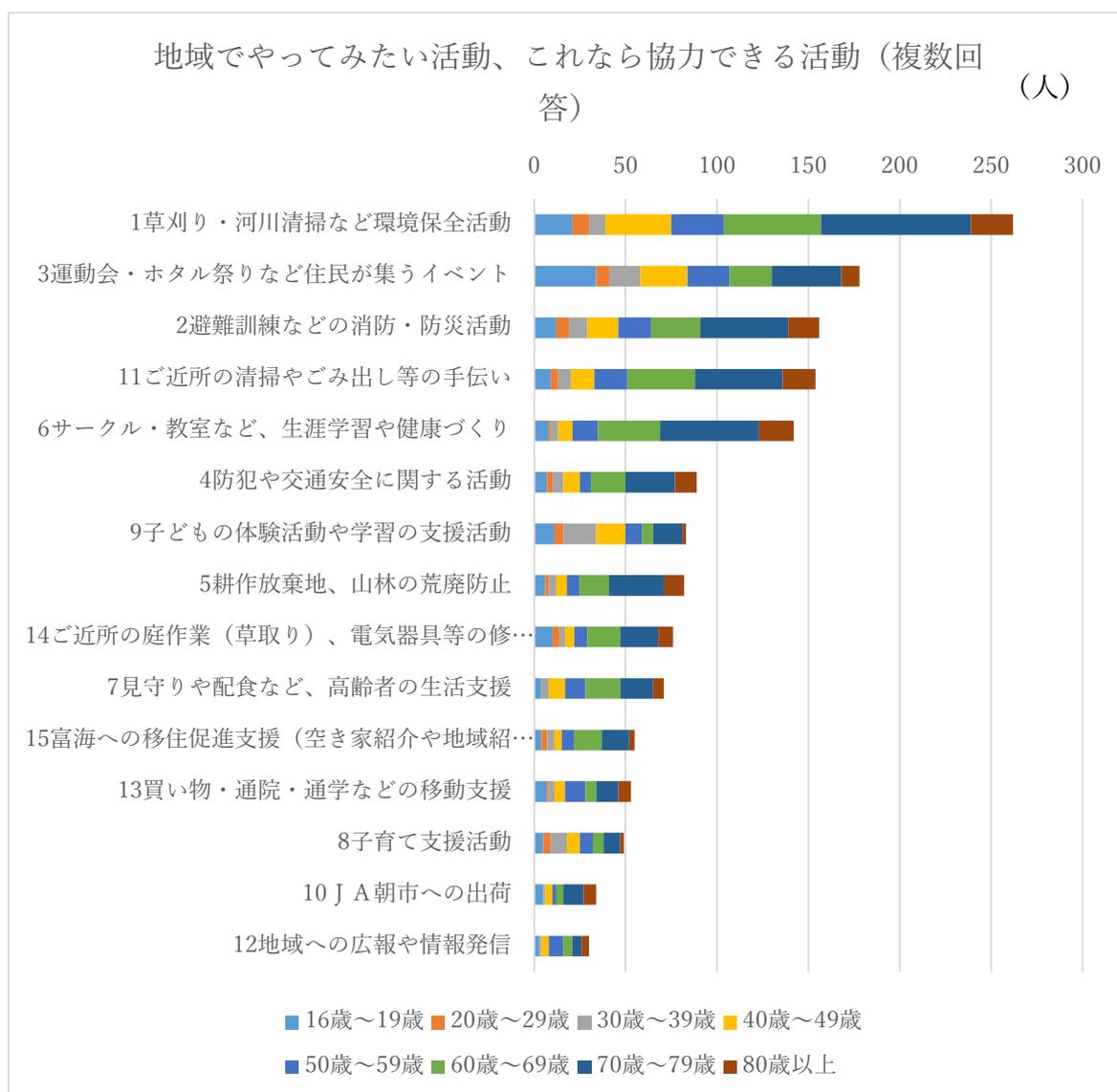
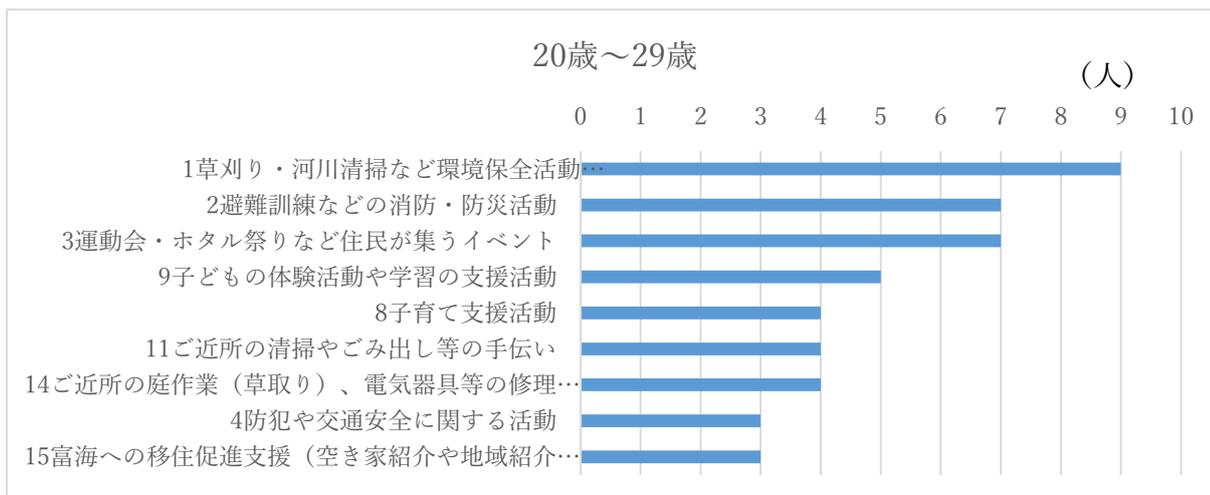
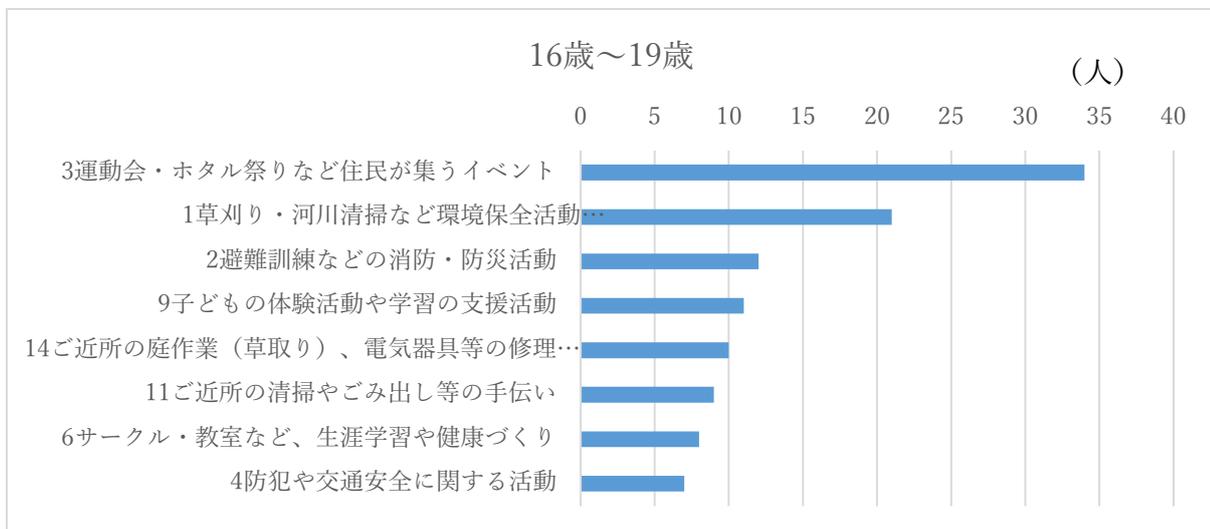


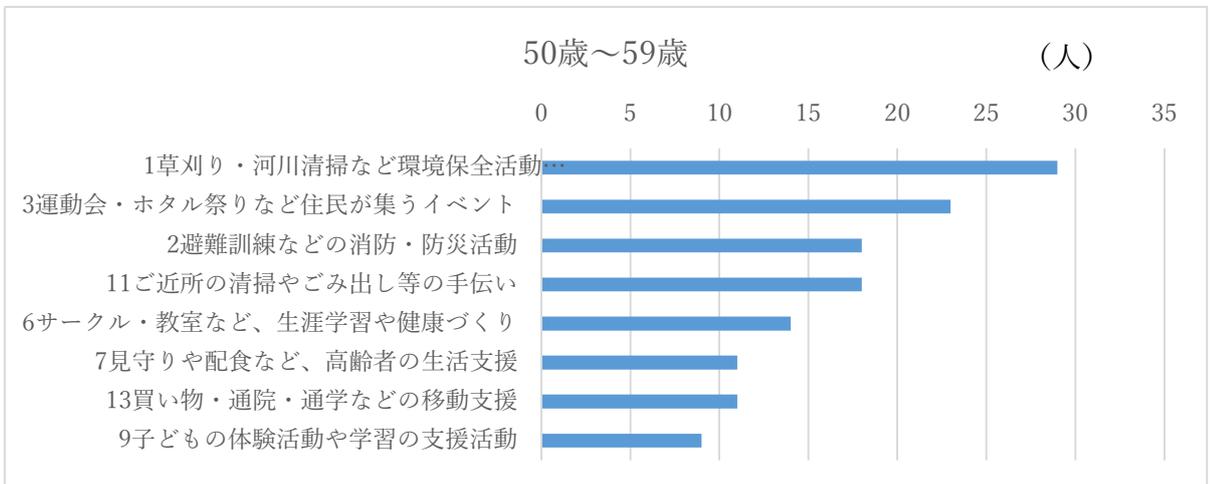
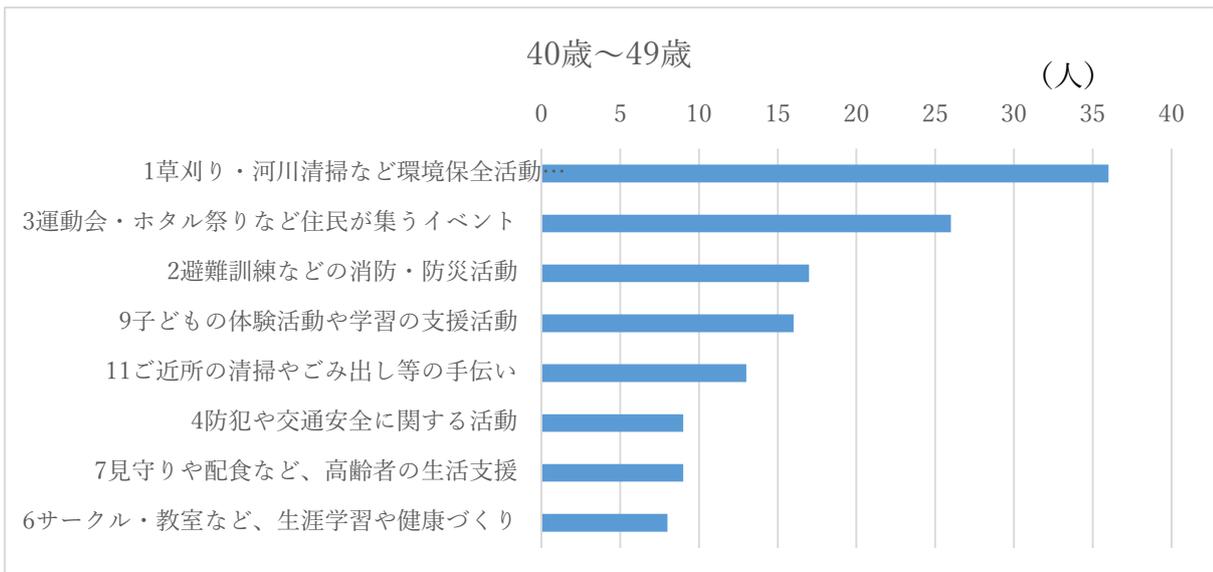
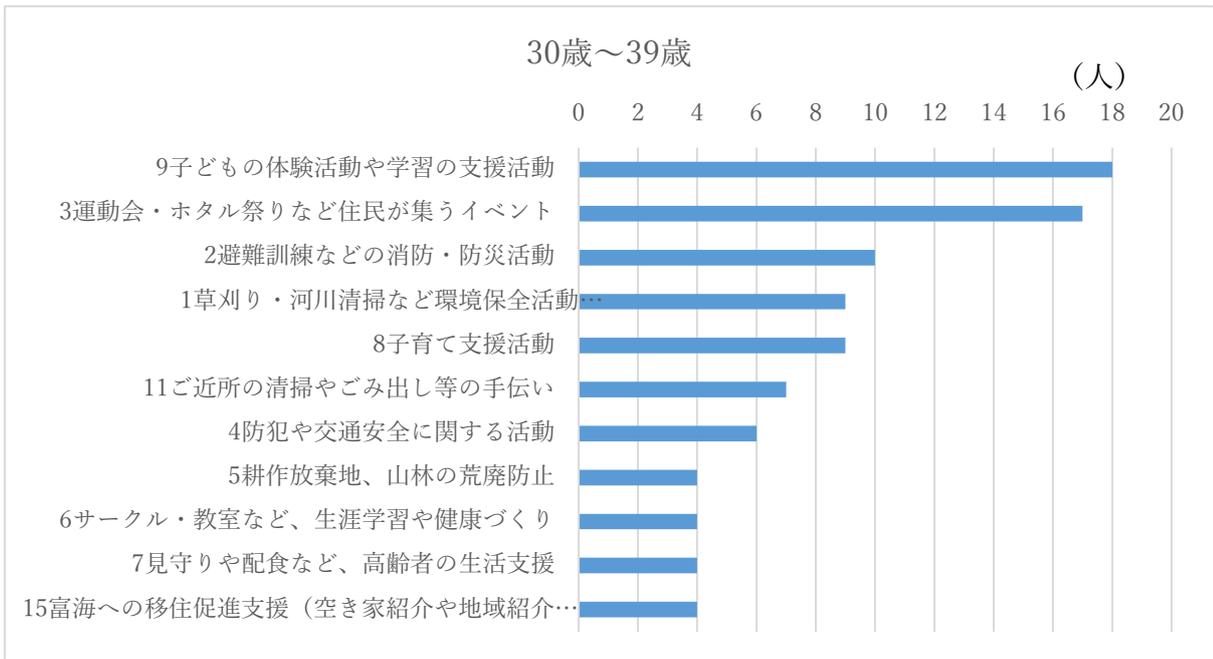
図19 地域でやってみたい活動、これなら協力できる活動（複数回答）

6-2 年代ごとの活動上位8位

図20には年代別に示した。10歳代では「3 運動会・ホタル祭りなど住民が集うイベント」「1 草刈り・河川清掃など環境保全活動」が多い。20歳代では、「1 草刈り・河川清掃など環境保全活動」「2 避難訓練などの消防・防災活動」「3 運動会・ホタル祭りなど住民が集うイベント」が多い。30歳代は、「9 子どもの体験活動や学習の支援活動」「3 運動会・ホタル祭りなど住民が集うイベント」が多い。学校行事への参加が多い。

40歳代、50歳代は、「1 草刈り・河川清掃など環境保全活動」「3 運動会・ホタル祭りなど住民が集うイベント」が多い。60歳代以上は、「1 草刈り・河川清掃など環境保全活動」「11 ご近所の清掃やごみ出し等の手伝い」「6 サークル・教室など、生涯学習や健康づくり」「2 避難訓練などの消防・防災活動」が上位に来ている。「6 サークル・教室など、生涯学習や健康づくり」が上位に来ているのが特徴である。





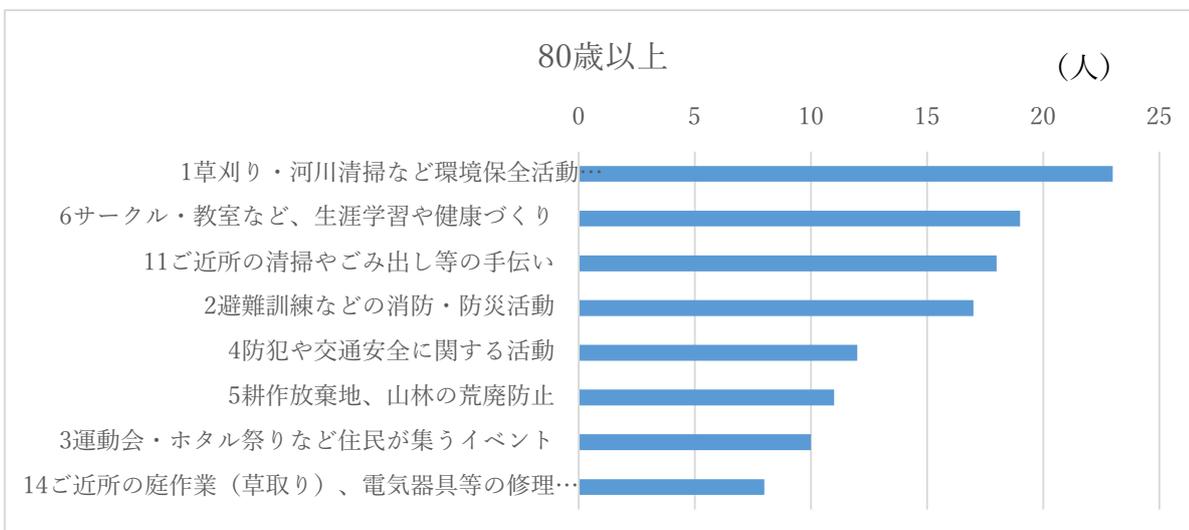
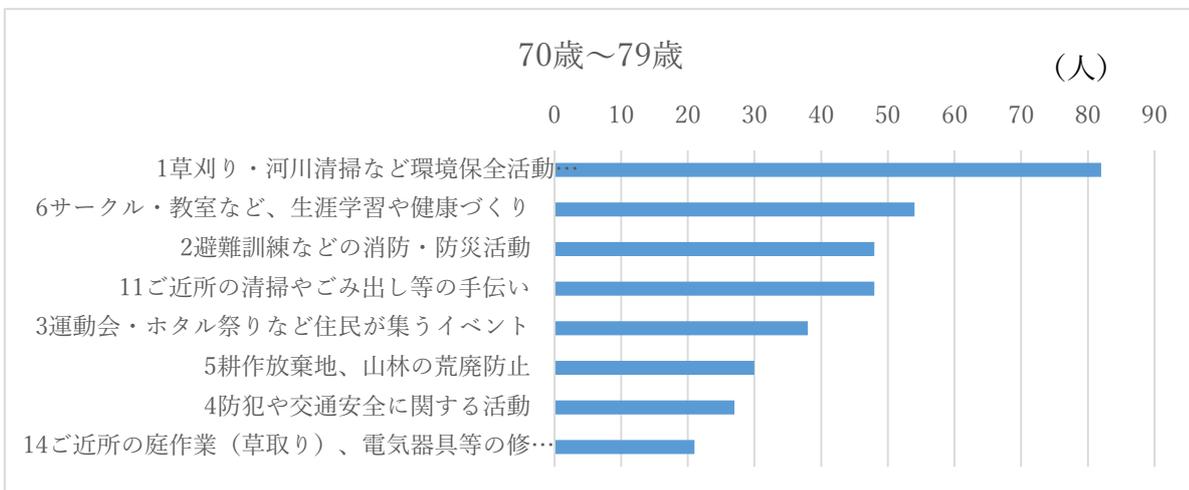
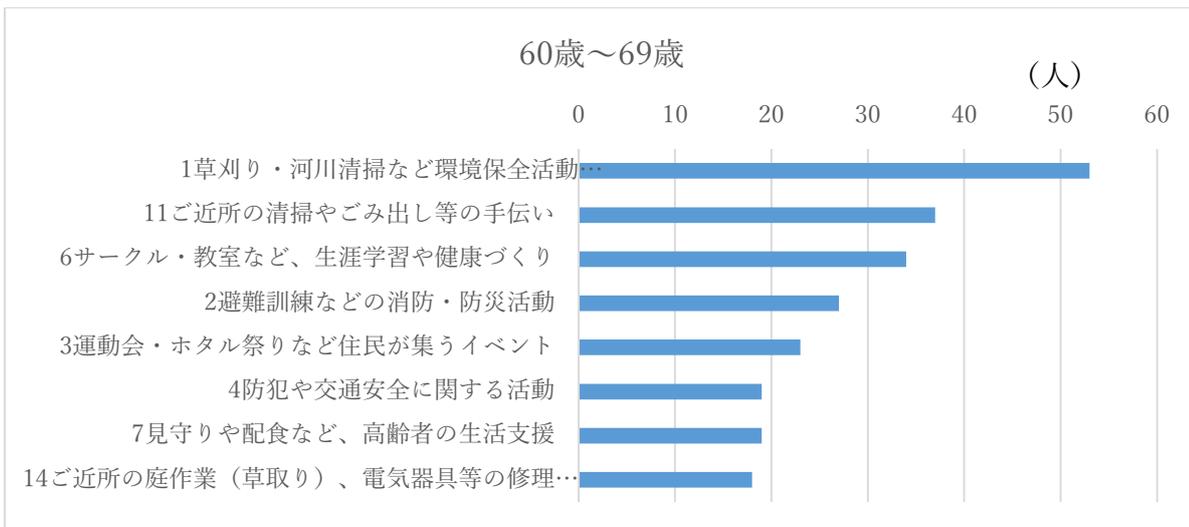


図 20 地域でやってみたい活動、これなら協力できる活動 年代別（複数回答）

6-3 男女別にみた活動上位8位

男女別にみた活動上位8位を図21に示した。男性では、「1草刈り・河川清掃など環境保全活動」がととも多かった。一方、女性は、「6サークル・教室など、生涯学習や健康づくり」「1草刈り・河川清掃など環境保全活動」「33運動会・ホタル祭りなど住民が集うイベント」が多かった。

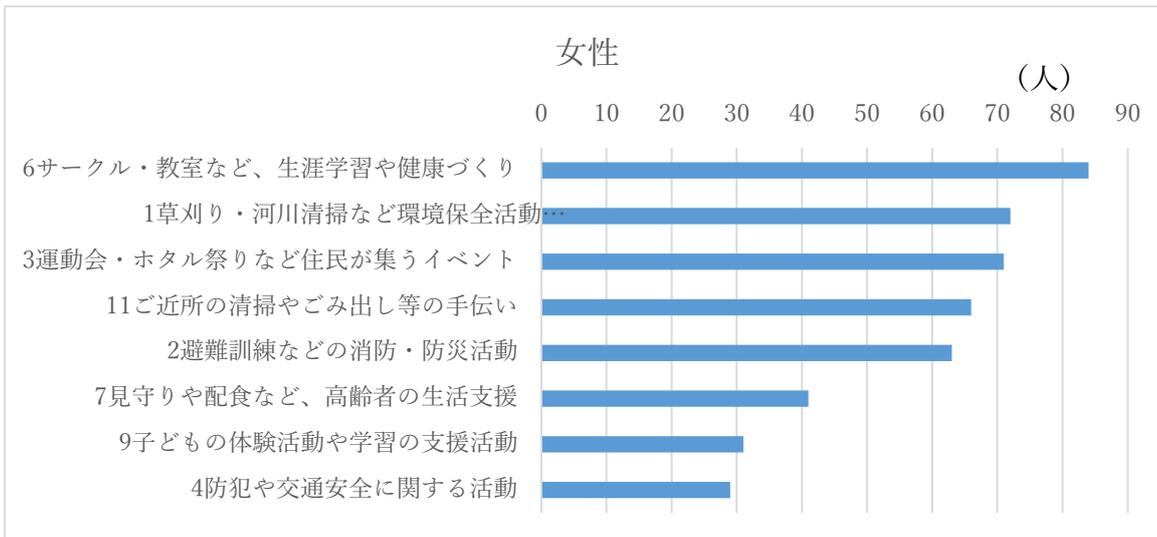
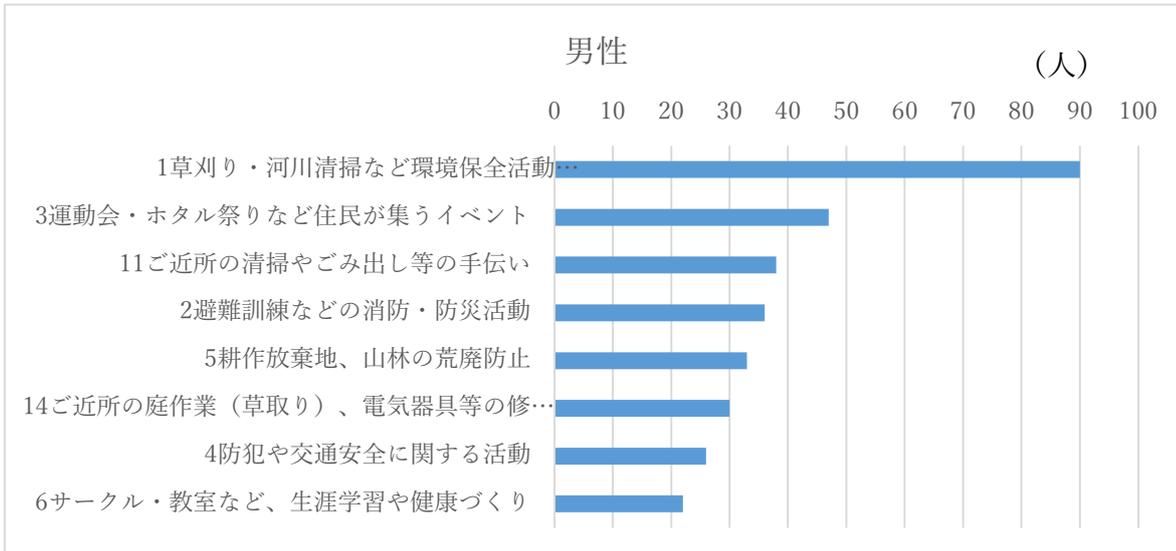


図21 地域でやってみたい活動、これなら協力できる活動 男女別（複数回答）

7 富海の魅力（複数回答）

富海の魅力を年代別に、図 22 に示した。富海の魅力として、「1. 景観・自然環境」644 人（34.2%）を 3 分の 1 の人、「4. 温暖な気候」495 人（26.3%）を 4 分の 1 の人が回答しており、自然環境の良さを魅力と感じている。ついで、「9. 富海小中学校での外国語活動などの特色ある教育」230 人（12.2%）の富海小中学校での教育、さらには「6. 藍の郷」216 人（11.5%）、「5. 特産物（天神みかん、ぶどう、ブルーベリーなど）」200 人（10.6%）、特産品が挙げられている。

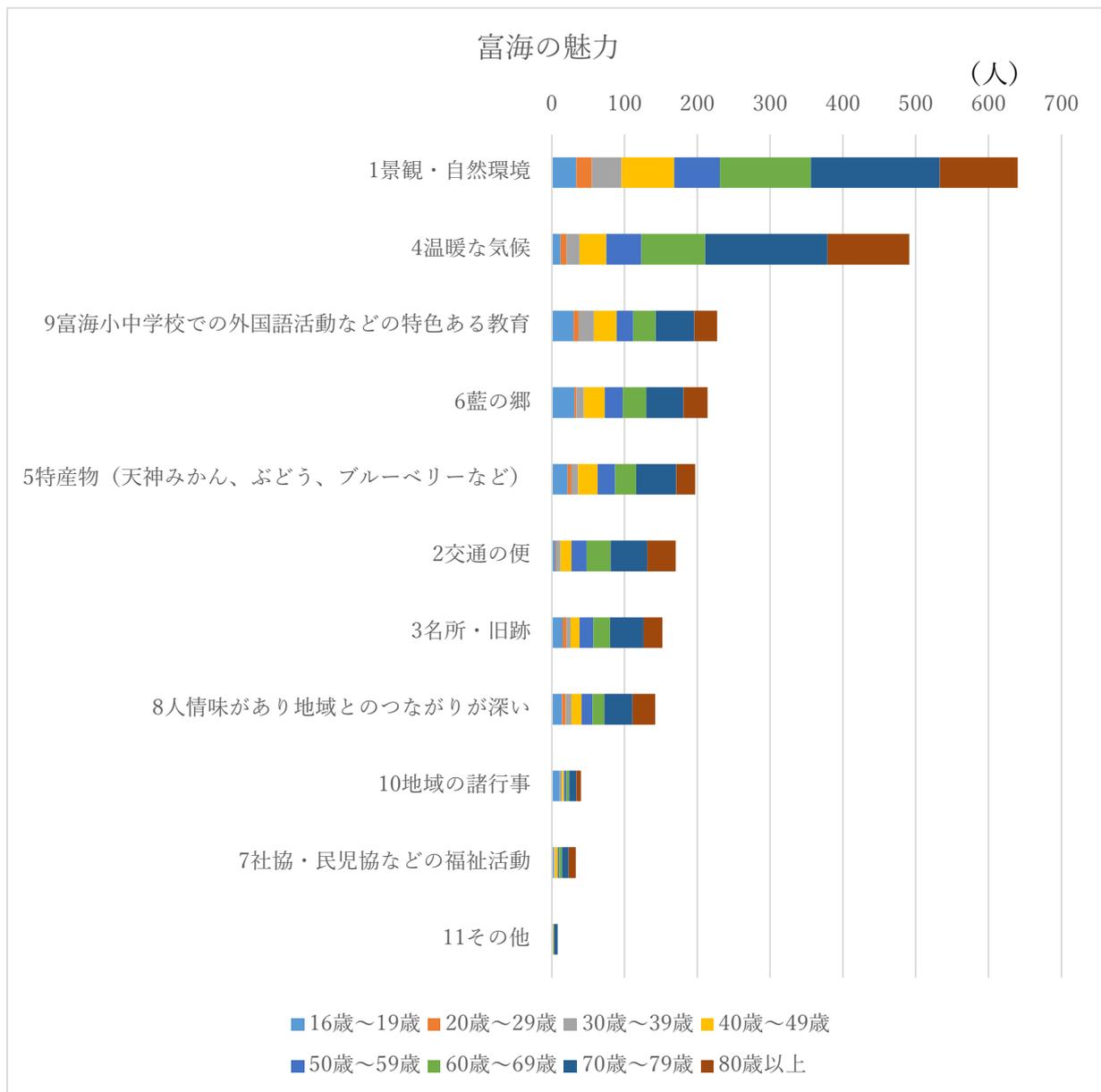


図 22 富海の魅力（年代別）

8 空き家等を活用し、新たな定住者を受け入れるべきだと思いますか？（単一回答）

「空き家等を活用し、新たな定住者を受け入れるべきだと思いますか？」を年代別に図 23 に示した。新たな定住者を受け入れるべきだと「思う」573 人（48.4%）であり、半数が受け入れるべき、と回答している。一方、「思わない」が 106 人（9.0%）で 1 割は反対である。「わからない」371 人（31.3%）は、3 割を占めている。

図 24 に、年代別の比率を示した。10 歳代、50 歳代、60 歳代は、定住者の受け入れることに積極的であるが、20 歳代では他の年代と比較して「思わない」の比率が高かった。

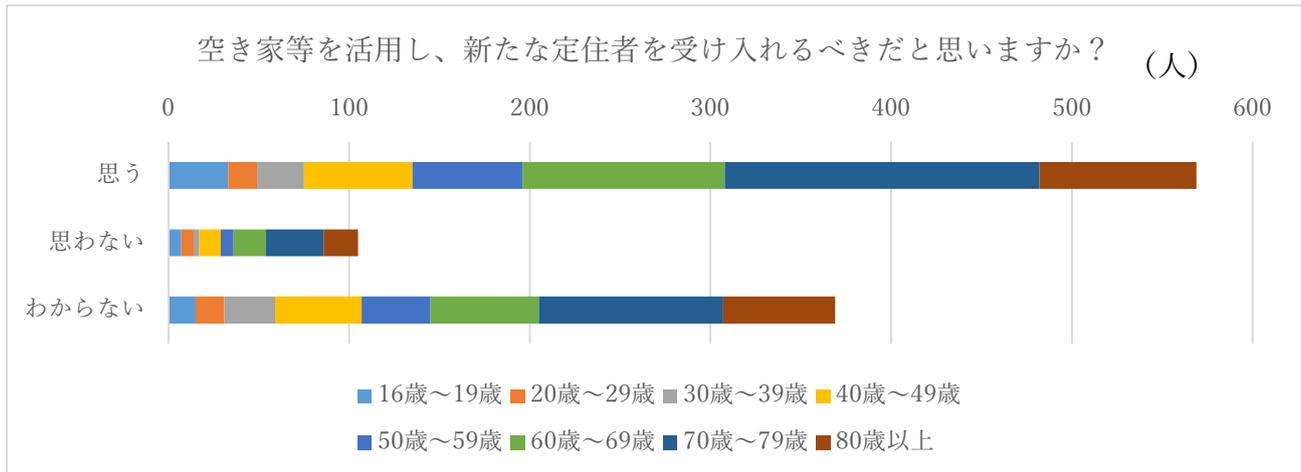


図 23 空き家等を活用し、新たな定住者を受け入れるべきだと思いますか？（年代別）

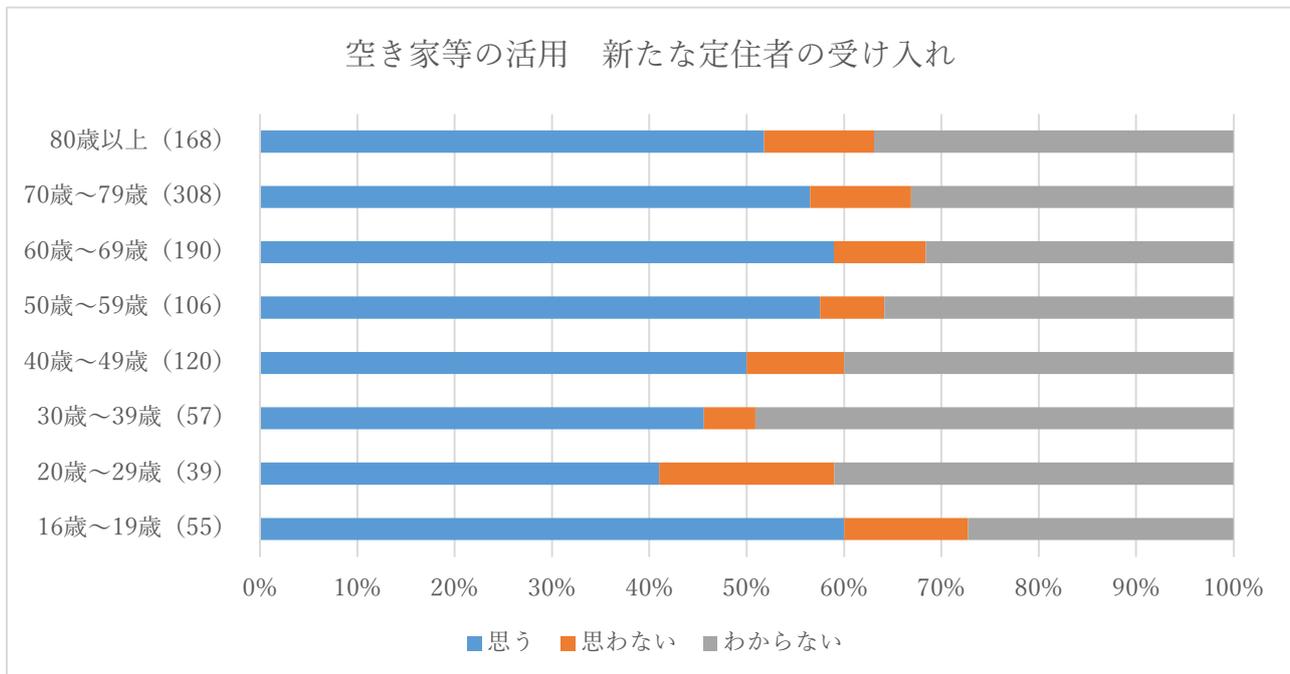


図 24 空き家等を活用し、新たな定住者を受け入れるべきだと思いますか？（年代別、比率）

9 富海の住みやすさ（単一回答）

9-1 年代別

富海の住みやすさを年代別に図 25 に示した。富海について、「住みやすい」228 人（19.3%）、「どちらかといえば住みやすい」562 人（47.5%）を合わせると、7 割は住みやすいと回答している。一方、「住みにくい」69 人（5.8%）、「どちらかといえば住みにくい」220 人（18.6%）と全体の 4 分の 1 が住みにくいと感じている。

図 26 には年代別に比率で示した。20 歳代を除き、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」が 7～8 割を占めた。20 歳代は、「住みにくい」と回答した比率が高い。

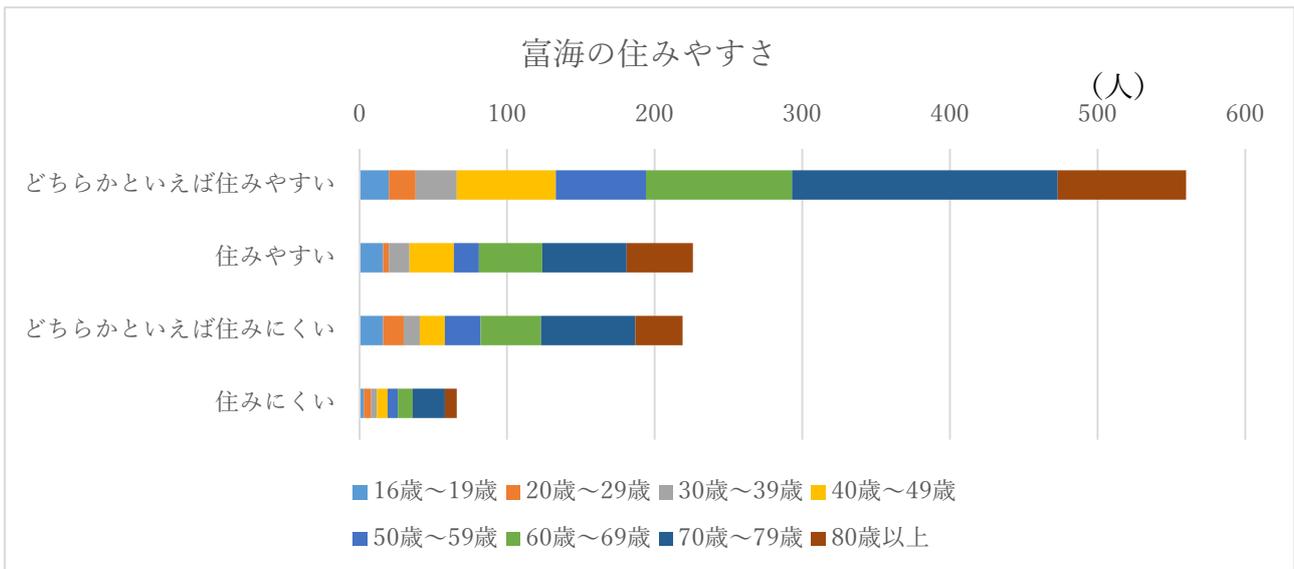


図 25 富海の住みやすさ（年代別）

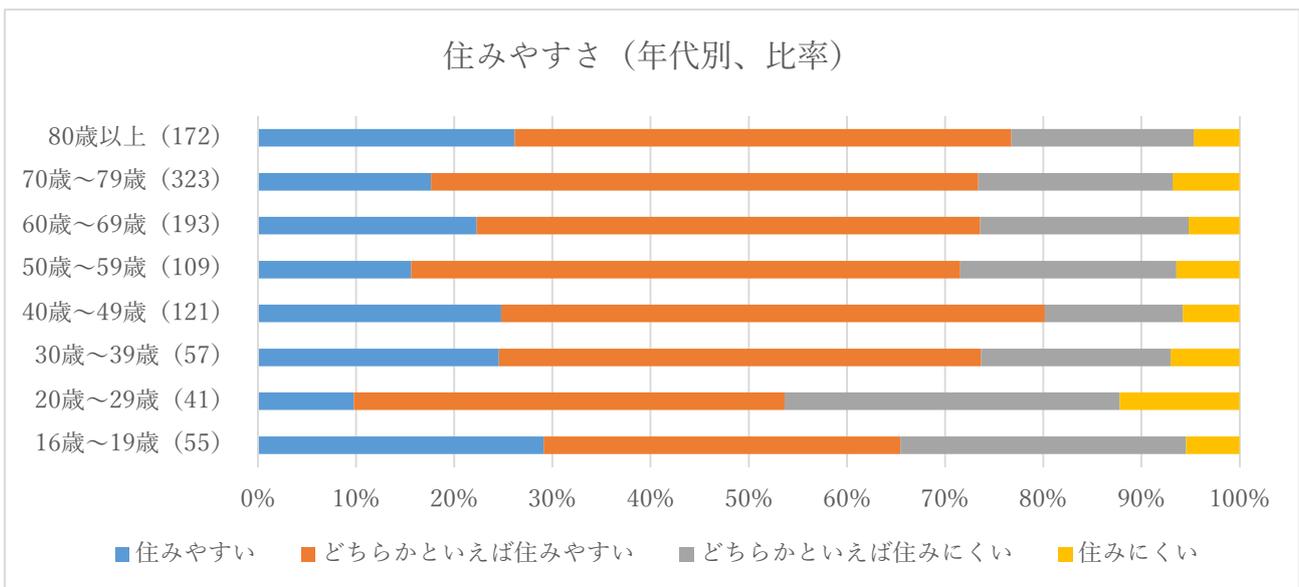


図 26 富海の住みやすさ（年代別、比率）

9-2 男女別

図 27 には男女別に比率で示した。

男女別にみると、男性のほうが住みやすいと回答していた。

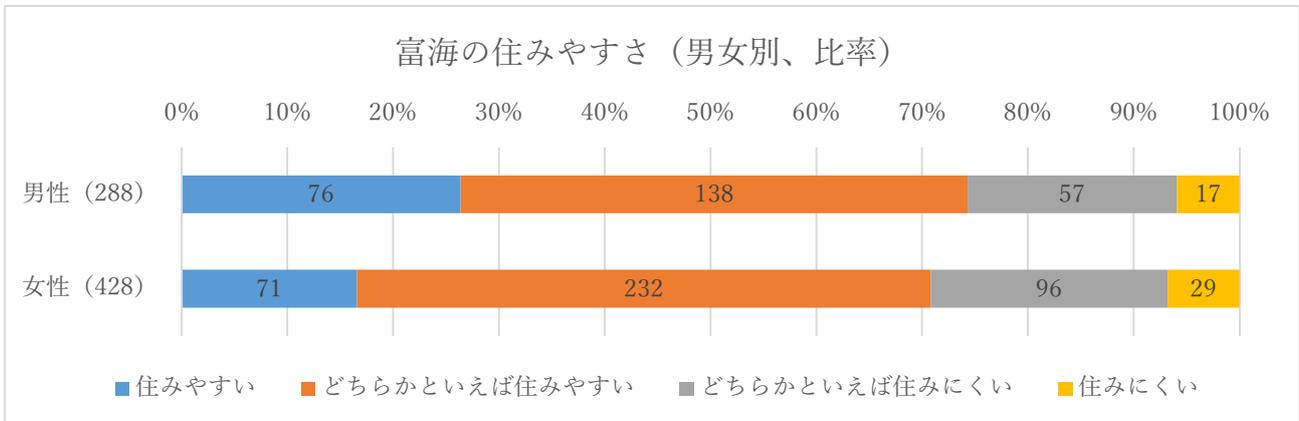


図 27 富海の住みやすさ (男女別、比率)

10 富海地域に住み続けたいと思いますか (単一回答)

10-1 年代別

図 28 に富海に住み続けたいと思いますかの回答を示した。「思う」688人(58.1%)と6割が住み続けたいと思っている。一方「思わない」104人(8.8%)で、1割弱である。「わからない」299人(25.3%)で、4分の1は分からないと回答している。

図 28 には、年代別に比率を示した。10歳代は「わからない」が半数であった。20歳代は、「思わない」が3分の1で、他の年代に比べて「思わない」の比率が高かった。「住み続けたい」が70歳代で63.6%、80歳代では76.0%であり、80歳代が最も多い。30歳以上の各年代で1割程度「思わない」と回答している。

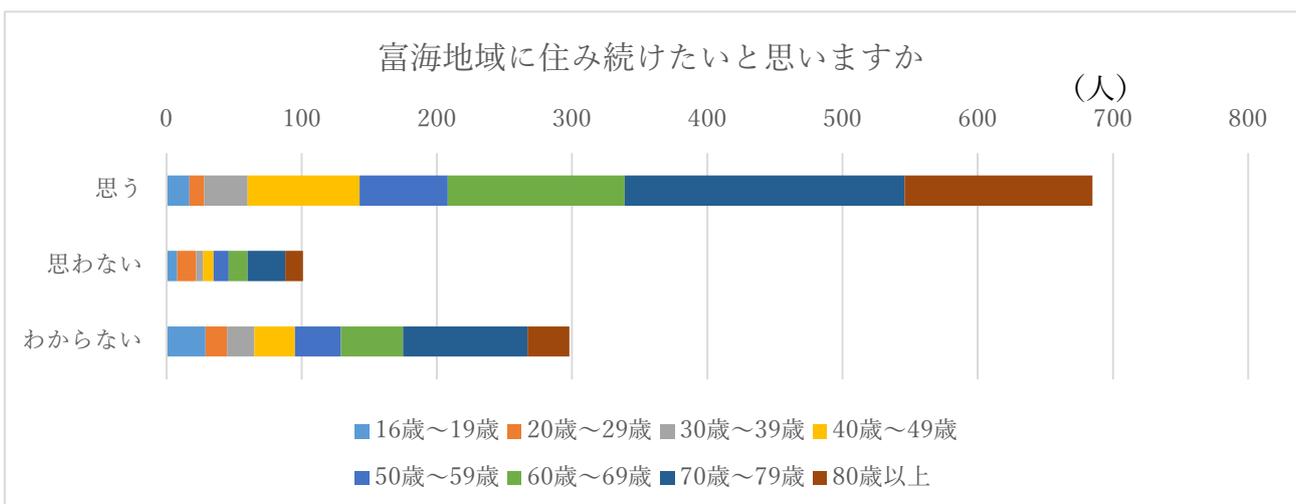


図 28 富海に住み続けたいと思いますか (年代別)

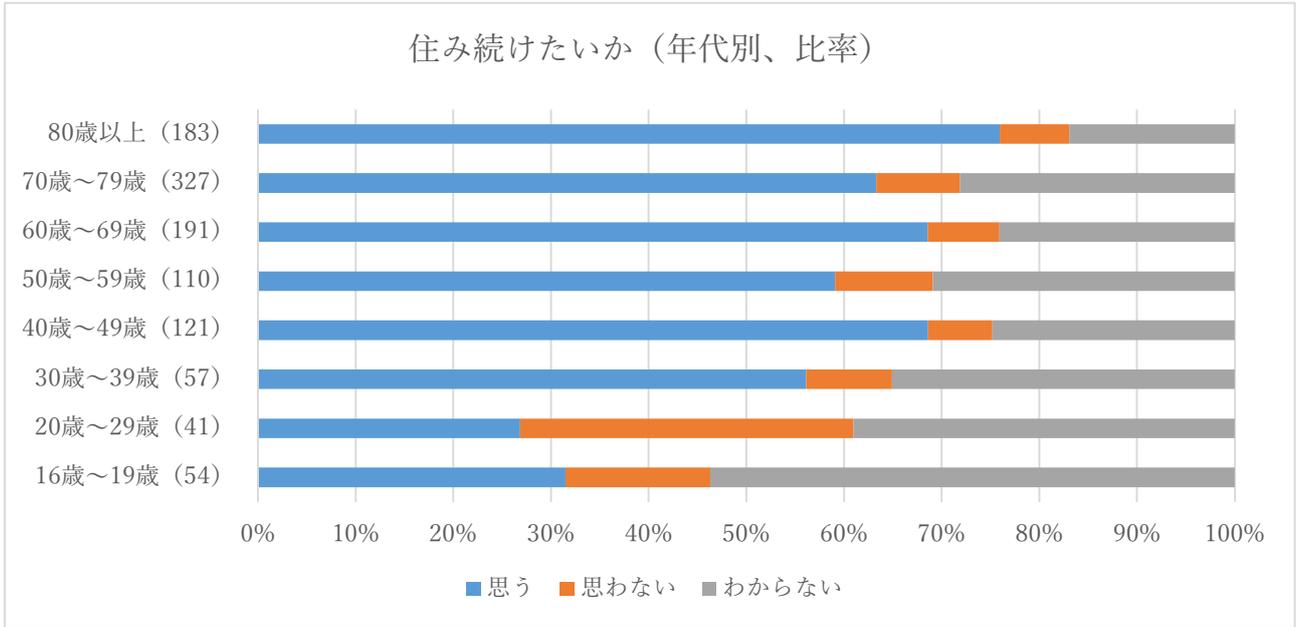


図 29 富海に住み続けたいと思いますか（年代別、比率）

10-2 男女別

男女別に比率を図 30 に示した。男女で違いは認められなかった。

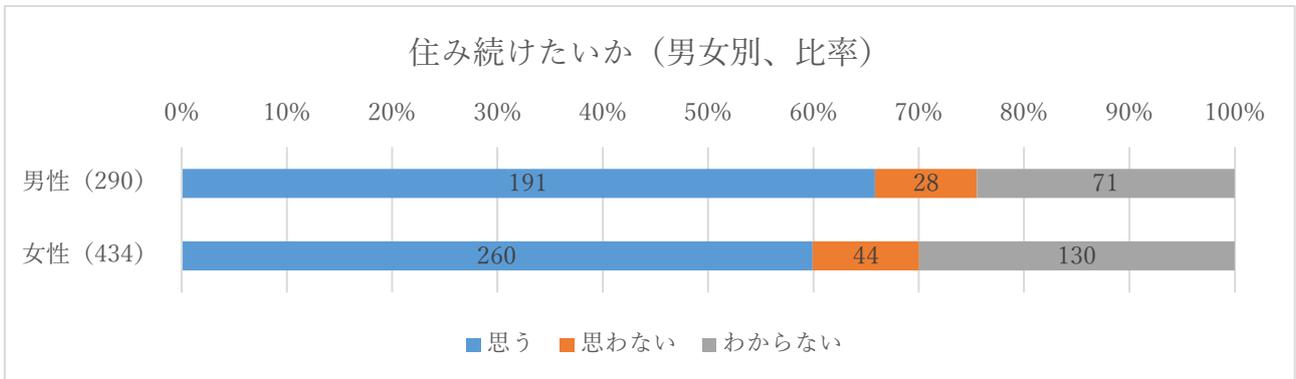


図 30 富海に住み続けたいと思いますか（男女別、比率）

1 1 今後取り組みたいこと

「問 14 こんな活動やこんな事業に取り組んだらいいのになあ！」自由記述の要約

1 交通インフラの整備

(1) 道路の拡幅・補修

緊急道路の確保

アスファルト道路をお洒落な道路に
石のでこぼこをきれいに。

市道の拡張（富海の西側（西の浜～末田）及び東側（脇地区～山根海岸）
道路河川の除草、剪定。地区と行政の一本化（住民意見の反映）

国道より山側を自動車が通れる道路を計画的に整備し（防府市）宅地としての価値を上げる。

旧三国重工西側にバイパスから海に向けて大型車が通行できる道を整備

(2) 渋滞緩和

道路の拡幅・信号 危険運転の防止 樺峠の渋滞の緩和

(3) 移動手段の確保

電車、バスの増便・福祉タクシーの利便性向上

とのみ福祉号 利用の実態を知りたい。市内南側方面への増便
駅前にタクシー

福祉号、おおいに助かっている。継続を。

富海～防府までの回送バス（小型）を走らせて欲しい。

路線バス。富海で停車してほしい。

(4) 駐車場の確保・ガソリンスタンドの設置

(5) その他

電気自動車充電場所の設置 バス停に屋根付きベンチ。

「ぐるっと車」「ぐるっととのみ」が、公民館の講座、サークル、行事に参加しやすいように山側海側の2路線に車が出るとよい

2 生活インフラの整備

(1) 通信環境の整備

インターネット回線の通信速度強化 光通信 5G

インターネットの通信基盤整備 光回線

(2) 上下水道の整備

(3) 電力の安定供給

(4) ゴミ捨て場所

ゴミ捨て場が遠い。ゴミ出しの場所の再検討 ゴミの収集場所

ゴミ箱設置。クリーン作戦 野外焼却撲滅活動

防府市全体の小中でも公共教育としてクリーン作戦を

(5) 医療施設・病院・診療所の設置

(6) 情報伝達の方法

ペーパーレス化。メール、ライン等の活用

3 住宅・空き家・空き地対策

(1) 空き地、空き家の活用（子育て世代の受け入れ）

空き家や老人独り住まいの庭木・雑草駆除。

空き家（若い人が借りやすく）の相談

DX（デジタルトランスフォーメーション）を進め、空き家を活用し、「富海に住んでもらう」
選択肢を与える

（注：DXとは、デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること）

空き家清掃、空き家情報の開示（シルバー人材の活用）

空き家を大学生用のシェアハウスに

他県からも受け入れを可能とし、空き家をシェアハウスもしくは、家族の受け入れ

(2) 空き家のリノベーション・リフォーム（パン屋、民宿等）

「空き家を〇〇にしようプロジェクト！！」

空き家で、おしゃべりや食事会 公的住宅 商業施設へ マンション建設

(3) 空き家の解体・更地化

(4) 住宅確保

3世代住宅事業、再度 学校前の住宅の活用

市営住宅、アパートなど住居の確保

移住者、Uターンの促進

人が住もうと思う街づくり。2号線沿いに食べ物屋等の販売店を集める

湘南、鎌倉のような住宅地に

4 高齢者が暮らしやすいまちづくり

(1) 高齢者が交流・集える場所づくり

カラオケ・スポーツ・サロン・カフェ・テーブル・パン屋さんなど

(2) 高齢者への声かけ運動

近所の人との交流の機会

(3) 高齢者、社会に役立てることをしたい

JAを拠点に独居老人への配食サービス、ごみ出し、清掃活動（シルバー人材活用）

得意を、高齢者の手助けにつなげる方法

(4) 高齢者施設

高齢者住宅の設置 介護施設 老々生活、介護で同居できる施設の設置。

小中学校の空き教室で、高齢者のための診療所の設置。

(5) その他

高齢者80歳以上の自治会活動は自由参加にして欲しい。1.地区内の清掃作業。

2.自治会の役員。3.自治会の世話役。高齢者の方へのお弁当（有料）のお届け。

5 商業施設の誘致・充実

(1) コンビニ・スーパー・道の駅の誘致

19:00以降買い物が出来る店舗の誘致

ちらしで富海の宣伝。国道沿いにアルクなどの誘致

商業施設（コストコ、イケア、アウトレット等）の誘致

(2) カフェ・食堂・レストラン・ホームセンター

海に近いカフェ カフェを増加 古民家リフォーム、お店。若い人からの情報発信
駅近の空き家に名物的な飲食店。富海の海産物、特産品の販売。キッチンカーなど
美味しいパン屋さんや惣菜店 自然環境を活かした食事処

(3) 自動販売機・ATMの設置

自販機。水飲み場所

(4) その他・移動販売等

富海の特産物、農産物を販売する道の駅などで活性化

誰もが買い物ができるシステム（移動型のスーパーの利用）

コインランドリーの誘致

JAの利用を JAの朝（野菜）の売れ残り等は、富海カフェで利用

特産品の地元民への発信、販売 特産品を地元で販売

特産品を活用した商品開発による6次産業化の支援

地元の総菜 小規模なお店の出典

店を始める人のサポート 買い物拠点、移動支援

郵便局。ATMの時間を長く

6 防犯・防災・安全対策

(1) 街灯の設置

街灯を。明るい富海に。 通学路の安全

(2) 安心できるまち

安心して暮らせる町に（不審者情報の共有）

河川洪水、土砂災害危険区域の安全対策増強

生活の質としてのすみやすさ。人にも動物にも優しい地域に

(3) 公共の場などバリアフリー化、駅の段差、バスの段差解消

(4) 防災対策

防災（サイレンが聞こえない）戸田山

防災体制の整備

(5) 鳥獣対策

野良犬、猫 イノシシ対策

犬の散歩、フンの後始末等、注意喚起を

7 健康づくり

(1) ウォーキングロードや健康器具の設置

サイクリングロードの整備

(2) 健康づくり

朝若しくは夕方の短時間の体操やウォーキングをする集い（希望者のみ）

ヨガクラス スポーツの誘致や趣味の場の提供

健康寿命へのサポート。軽い運動と憩いの施設。

8 観光・イベントの開催

(1) 富海駅の活用促進

駅周辺の居場所の充実 駅周辺の整備 駅駐車場に屋根

駅の改修。駅をきれいに 北口の設置 屋根の改修

駅の活用（イベント、会議の貸し出しなど）

富海駅、車両とホームの段差の解消。エレベーターの設置

富海駅をアピール

駅の利用（校区外生徒の増加）、駅に見守りの人を付ける

富海駅に「誰もいない海」のメロディを流す

(2) 富海海岸・富海海水浴場の整備充実

海岸を花畑に（有料駐車場料金で）

海水浴場周辺の駐車場・通路の舗装整備 海水浴場のボコボコ道の検討？

海水浴場の整備 きれいに 海岸の清掃を定期的実施 2週間に1回のペース。

夏のイベントを増やす 海に関係したイベント、フェスタなど

海の活用。潮干狩りの事業化。

海水浴場にビーチサッカー、ビーチバレーが常時行える場所を整備

海の清掃活動 「海と日本 PROJECT」のパートナーに学校や企業も参加

海岸清掃 クリーン作戦等で目的意識の明確化

フィッシングパークの建設。 魚釣りを支援

富海海水浴場にキャンプ場、アクティビティパーク

海で貝掘りや魚釣りが自由に

釣り堀、BBQ 場、名物海鮮丼を提供できる施設、

養殖場（牡蛎・くるま海老、あさり等）

海水浴場の宣伝

少年スポーツ団。海をいかしたこと。特産品体験

夏の海の騒音対策（見回り強化か駐車料金等の徴収）

(3) イベントの開催

看板、海の駐車場、駅の整備。店。海でのイベント。

イベント施設の開発

「17歳」にちなみ、歌碑建造。17歳を集めたイベント。

「おむすび」を持って富海探訪

稲刈り田植え体験。海を綺麗に。

規模が大きめのお祭り

小さな子どもでも参加できる行事

ホテル祭りや公民館の文化祭で富海の飲食店の屋台を設ける

祭り等の日時を分かりやすいよう回覧に。盆踊りの再開

トンネルに、タイルアートなどを地域の行事として行う。

(4) 藍の郷の取り組み・PR

「藍の郷」事業はすばらしい 「富海の藍づくり」も継続

男性も藍染を

(5) 歴史・自然をいかした取り組み

琴音の滝に、そば処を。駐車場は龍谷寺に。 琴音の滝までの道の整備

大平山の登山道の整備。海の清掃。山で遊べる場所づくり。

自然環境の活用。海、山をきれいに。琴音の滝に手すりなど設置

史跡のPR 拡大拡充 地元でのPR 歴史・文化のまちに

国津姫神社の盆踊りの再開

伝統文化を大切に（「琴音の滝」、富海海岸花火大会など）

(6) その他

竹林の整備と起業。 ボランティアで田んぼの草刈り

手づくり作品店など出展お店作り

トイレ、公園をきれいに。

峠からみて明るい富海

案内所。スタンプラリー。草刈り。CM 発信。

山道の整備 山を花の名所に 花を植える

山林の活用、オートキャンプ場など

自然と動物と人が共生できる場 動物愛護の啓発

富海の良さを輝かせる活動

地下道にタイルアートを設置

9 人口定住・住民相互の交流

(1) 若い世代との交流

若い人の居住の増加 若い人の定住のため、空き家活用。
若い人を中心に、帰りたくなる田舎へ
若者が家庭訪問して会話
若者が集えるイベント 若者にボランティアで高齢者の援助を
若者の集まりやすい場として、空き家の活用（年配が見守る）
若者をリーダーに

(2) 住民相互の交流

人的交流の活性化
外からの受け入れやすく。多様性を認める意識改革
地域おこし協力隊
五月人形、お雛様を飾り、家を訪問しあう
近所づきあいを 後継者を育てる
戸建ての家の夜間ライトアップ

(3) 公民館活動等との連携

公民館活動の充実。男性も参加できるサークル。
会館等の開放

10 子育て・教育

(1) 子育て環境の充実

子どもの遊び場、遊具の設置 子どもが集まれる公園
メバル公園のような子供遊び場。
わっしょい文庫の活用
子供たちがいきいき過ごせる地域づくりに 子どもたちのあいさつ
お手伝い券の発行
放課後に友達と集まれる場所。お店。

(2) 富海小中学校の利活用

富海中学校の空き教室を外国人学校、もしくは老人ホームとして活用
富海中学校の空き教室を活用（全天候型イチゴプラント）、イチゴ加工場・出荷業務
英語教育を発展させるイベント
学校給食を有料で地域の人が食べられるように
地区ごとに中学校で集まる
富海中学校の後地に老人ホーム
富海中学校の敷地に商業施設、総合病院を誘致してほしい。
小中校連携の学校行事を増やす

1 1 土地利用

土地開発を最優先に

放置田 休耕田の利用

休耕田、花壇づくり 休耕田等の草刈 休耕田に彼岸花「彼岸花の富海」

「労働の場」として富海地区を提供

共同農地 耕作放棄地をひまわり畑。富海以外の人に貸す。

市街化調整区域の解除

農地の地目変更

農地を民営化して米作り、野菜、みかんづくり。

農作業お助け事業 みかんの復活

梶野地区のみかん栽培で「みかんの里」

住民の生活に関わる情報（医者、会社、店など）がわかる富海の地図がほしい。

公民館の講座か同好会で花づくり

1 2 自治会活動

自治会活動の役員決めが難しく 住民で PDCA サイクルを回す。

若い時は協力できました、今はおっくうに。

各自治会の役が多い。サポート、簡素化が必要。

同年代で支えあうことが無理に

1 3 その他・活性化協議会の活動全般について

(1) 活性化への意見

富海でがんばっている若い人を知ってもらおう。テレビ、ラジオ。

一度富海を離れてみて良さを実感 win-win な関係ができるだろう

地方暮らしの関心高まったといえる

参加できる事業があれば参加する

富海の活性化、プロに計画・発案を 発想の転換が必要

まずは防府駅周辺並びに天満宮へ行くアーケード街の活性化する。防府駅周辺が賑やかになれば、富海へも足を運ぶ人が増える

祭りをもっとする。困っている人へ経済支援。コンビニ、ファミレス。

アンケートより LINE で意見をいいたい

(2) 活性化協議会について

活性化協議会って、何？ 富海活性化協議会、何をやっても無駄。

活性化協議会の活動内容を具体的に知りたい

富海地域活性化協議会に関する質問が全くない。人心を一新出来なければ協議会は、不要。

富海活性化協議会、富海保全会等活動内容や組織等がすべての人々に分かるように公民館として周知すべき

住民へ参加できる事業を提案する

事業、活動のアピールを地元民へ 集計結果を発表してほしい

活性化協議会の方で立派な活動目標といえる知恵を

自治会連合会、社会福祉協議会、地域活性化協議会それぞれの規約とメンバー名は？それぞれの役割と分担が分からない。特に活性化協議会の活動内容が分からない。重要事項は体育館等で直接民主主義で決めたらどうか

必ず実行できる項目に取り組みられる報告を心から

HPをお気に入りに登録した

(3) その他

上に立つ人材を考えること

民生委員の訪問がない。民生委員あるいは富海地域活性化協議会で訪問してほしい。

宅配ピザ等が別料金での配達。通常料金に。

國津姫神社の秋祭りに1口2000円の寄付の在り方

参考資料 自由記述 富海小中学校中学部 生徒の意見から 要約

(1) 環境保全に関すること

- ・海が汚くなってほしいから、海をきれいにしたい。
- ・富海をきれいなまま保ちたい。伝統を残したいという気持ちを忘れないこと。自分はゴミをポイ捨てしないようにしたり分別をしたりゴミのことに気を付けて、これからも頑張りたいです。そしてそれを行動に起こすこと。
- ・将来、沢山の人が富海に来てほしいので、富海のいろんな場所に花を植えて色とりどりにしてほしいです。
- ・町の清掃を行ってほしいです。それこそ中学生もボランティアで参加しますので、きれいな自然を守りたいです。海もゴミが多く感じました。大人に限らずですが、クリーン大作戦ができたかと考えています。
- ・地域活動でゴミ拾いなどをしていくようにしたいです。
- ・富海の海をきれいにする。ゴミが海に無い状態（流木や石も含む）

(2) 人間関係に関すること

- ・みんなが空気を読める人になってほしいと思いました。無理だろうと思うけど、みんなが空気を読めたら富海も良くなると思います。
- ・若い人が増えてもあたたかい富海であってほしい。

(3) 人口定住・まちづくりに関すること

- ・将来の富海には若い人がいっぱいいて、いろいろな設備が整っていて、にぎやかな村から町にしたいです。でも、高齢者ばかりで若い人は他の町に行ってしまうような富海にはなってほしくないです。
- ・私は、将来富海が発展したところになってほしいです。
- ・もっと人口を増やしてほしい。
- ・若い人向けの何かをつくる（服屋、スイーツ屋とか）。
- ・将来はもっと店とか病院とかを増やして外から人を呼んだりして富海をもっとたくさんの人が住みたいと言ってくれるような町であってほしいなあと思っている。しかも、なってほしくないのは、このまま若い人たちがまったくいなくて、高齢者の方々しか住んでいないなどにはなってほしくないです。もっと、店がたくさん出来て、富海に明るい光を照らせるようにしたい。
- ・若い人が増える。
- ・海外の人たちと、なんのへりくだりもなく会話したり仲良くしたい。
- ・すたれきった土地。もっとたくさんの人が住むところになってほしいと思います。
- ・将来、富海に住み続けるために、富海で就職活動ができるといいかなと思いました。
- ・小人数だからできることもあるので、このまま小人数でいいと思います（小中学校）。

(4) 商業（コンビニ・スーパー）に関すること

- ・お店がもっと増えてほしいです。
- ・コンビニ、スーパーなどを増やす。富海にしかないコンビニ→藍色を特色にした食品、ランチタイムに富海の給食など。
- ・コンビニがあつたらいいなと思います。電車の本数を増やしてほしいです。
- ・コンビニをつくってほしい。もっと若い人たちを呼んでほしい。

(5) 観光・イベントに関すること

- ・琴音の滝の登山道をもう少し広くしてほしい。とのみん通りがもっと活気が出てくれるとうれしい。
- ・富海に人が少なくなっているの、富海に来ないとできないことを考えて実現していきたいです。富海の魅力を友達に沢山伝えて来てもらいたいです
- ・富海の魅力を発信。CMづくり。祭りを増やす。
- ・富海ほど、こんなに伝統文化である藍にふれている地域はないと思います。なので、藍染体験、藍染の商品を前向きにおしだす（ポスターやCM、パンフレット）。
- ・海や藍のような観光資源を有効に活用できるように、宣伝か環境の整備をしてほしい。そして、多くの人に訪れてもらえるような地域になってほしい。

(6) 空き家に関すること

- ・空き家の取壊しや管理。草の整理。美化。新しい建物。
- ・やっぱり沢山の人が住んでほしいので、難しいしお金もたくさんかかるかもしれませんが、空き家などを建て替えて、家を貸したりするなどを頑張ってほしいです。
- ・空き家が増えてほしくない。落書きなどをされて汚されたくない。
- ・空き家を減らす。

(7) 安心・安全に関すること

- ・夜、道が暗すぎるので、明るく（明る過ぎない）なってほしい。
- ・津波などに備えてほしい。
- ・野良猫を減らす。

IV 全体総括（要約）

- (1) 本アンケート調査の目的は、富海地域に暮らす住民が日頃思っていることや意見を収集し、富海を元気にする取り組みを検討する資料とすることである。
- (2) 調査対象者は、富海地域に暮らす高校生以上全員を対象として、アンケート調査を実施した。回答者 1,188 名のうち、有効回答者数 1,184 名（富海中学生含む）。有効回答者のうち中学生（37 人）を除いた数は、1,147 名で、富海の 18 歳以上の人口 1,708 人であり、回収率 67.2%である。実施時期は、2021 年 9 月 5 日から 10 月 5 日。調査用紙を配布、回収した。男女別、年代別、地区別に検討を行った。
- (3) 主な交通手段は、自家用車（運転）が最も多い。ついで自家用車（同乗）、電車である。男女別にみると、男女ともに自家用車（運転）が多く、自家用車（同乗）は女性に多い。電車、路線バス、とのみ福祉号など、公共交通機関を、女性が多く利用している。
自家用車（運転）は 60 歳代では 85%を占めているが、70 歳代、80 歳以上では、自家用車（運転）は 29%に減少し、自動車（同乗）、路線バス、電車の利用、とのみ福祉号の利用が増える。とのみ福祉号の利用は 80 歳以上、女性に利用が多いことがわかった。
- (4) 使用しているコミュニケーションツールでは、メールがもっとも多く、ついで LINE（572 人）である。70 歳代、80 歳代では「使用せず」が増加する。特に 80 代以上は「使用せず」が多い。
- (5) 富海地域活性化協議会が発行した事業活動報告書や HP の閲覧状況は、10 歳代、20 歳代では、閲覧したがあるのは 1 割である。70 歳以上は、半数近くが閲覧しているが、30 歳代以下では、ほとんどの人が閲覧したことがない。
- (6) 日常生活で、不安・困っていることでは、「11 空き家が増えていること」「14 有害鳥獣（イノシシ・サル・ヌートリアなど）の被害に関すること」「10 街灯が少なく、夜間の移動に不安があること」（262 人）、「9 道路が狭く車（自家用車・救急車などの緊急車両）の通行がしにくいこと」（259 人）が上位に上がっている。男女別にみると、差がある項目は、「2. 庭作業（草取り）、電気器具修理となどの軽作業のこと」「3. 介護や、病気になったときの世話をしてくれる人が身近にいないこと」「6. 家族の介護や看病に関すること」で、女性のほうが不安に感じていた。

(7) 満足度が高いのは「21 広報誌（社協だより、学校だより）などの発行や、回覧板など、情報提供について」、一方、満足度が低いのは、「24 インターネット回線の通信速度について」「12 農地・山林などの維持管理について」「13 有害鳥獣被害への対応について」であった。

重要度が高いのは、「15 登下校の見守りや安全な遊び場など子どもの安全を支える活動について」「3 避難訓練・待避場所運営訓練・連絡体制などの防災活動について」で、一方、重要度が低いのは、「9 とのみ踊り等の伝統文化の継承について」「19 富海総合運動会等の地域交流のスポーツ大会について」であった。

重要度と満足度の差が大きいものは、重要度に比較して、現状が満足できる状況ではないと言える。「3.避難訓練などの防災活動」、「12.農地・山林などの維持管理」、「13.有害鳥獣被害への対応」、「14.買い物・通院など、移動支援活動」、「24.インターネット回線の通信速度」があり、これらは、今後取り組むことが重要であるといえる。

(8) 「地域でやってみたい活動、これなら協力できる活動」で、「1 草刈り・河川清掃など環境保全活動」、「3 運動会・ホテル祭りなど住民が集うイベント」「2 避難訓練などの消防・防災活動」「11 ご近所の清掃やごみ出し等の手伝い」「6 サークル・教室など、生涯学習や健康づくり」であった。

10 歳代では「3 運動会・ホテル祭りなど住民が集うイベント」「1 草刈り・河川清掃など環境保全活動」が多い。30 歳代は、学校行事への参加が多い。40 歳代、50 歳代は、「1 草刈り・河川清掃など環境保全活動」「3 運動会・ホテル祭りなど住民が集うイベント」が多い。60 歳代以上は、「6 サークル・教室など、生涯学習や健康づくり」が上位に来ているのが特徴である。

男女別にみると、男性では、「1 草刈り・河川清掃など環境保全活動」がとても多く、一方、女性は、「6 サークル・教室など、生涯学習や健康づくり」「1 草刈り・河川清掃など環境保全活動」「3 3 運動会・ホテル祭りなど住民が集うイベント」が多かった。

(9) 富海の魅力は、「1. 景観・自然環境」「4. 温暖な気候」など自然環境の良さを魅力と感じている。ついで、「9. 富海小中学校での外国語活動などの特色ある教育」「6. 藍の郷」「5. 特産物（天神みかん、ぶどう、ブルーベリーなど）」が挙げられている。

(10) 「空き家等を活用し、新たな定住者を受け入れるべきかについては、新たな定住者を受け入れるべきだと「思う」は、半数が受け入れるべき、と回答している。年代別にみると、10 歳代、50 歳代、60 歳代は、定住者の受け入れることに積極的であるが、20 歳代では他の年代と比較して「思わない」の比率が高かった。

(11) 富海について、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせると、7 割は住みやすいと回答している。年代別にみると、20 歳代は、「住みにくい」と回答した比率も高い。男女別にみると、男性のほうが住みやすいと回答していた。

(12) 富海に住み続けたいと思いますかについては、6 割が住み続けたいと思っている。20 歳代は、他の年代に比べて「思わない」の比率が高い。一方、「思う」比率は、80 歳代が最も多かった。

V 富海地域の活性化についてのまとめ

アンケート回答者の6割以上は60歳以上の住民である。このことが富海地域の特徴であり、アンケート結果についても60歳代の意見が大きく反映する結果となっている。このことをふまえて、今後の方向性について付言する。

(1) 交通インフラの整備

年代が高くなるにつれて、買い物や通院等で公共交通に依存する割合が高くなっている。JR 富海駅があるものの、買い物や通院のためにはバスや福祉タクシー等の利便性の向上についての要望が非常に高い。また、自家用車を利用するにも道幅の狭さが課題となっている。緊急車両が入らないことを含めて、「困っていること・不安」の要因である。JR 富海駅の階段等のバリアフリー対応が早急な課題である。

交通インフラの整備は、住民で簡単に解決できる課題ではなく、自治会等を通して富海地域全体の要望として行政や、民間交通機関に働きかけることが必要である。

(2) 生活インフラの整備

生活面での課題として、地域内に、病院・コンビニがないため、地域外へ行かざるを得ない状況である。日常生活に直結する身近な店舗や病院は、若い世代にとっても重要である。病院・コンビニがあることは、人口の減少を少しでも食い止めるために必要である。病院については、恒久的な施設が望ましいが、定期的に診療を受けられる診療所の開設や、とのみ福祉号の運行の充実、ICT を利用した遠隔診断など、何らかの形で医療・福祉の向上につながる仕組み作りが必要である。

高齢化に伴い、ゴミ出し、草刈り、地域の行事への参加など、日常的なことも難しくなってくる。有害鳥獣対策など、日常生活を送るためのシステムづくりが必要である。

(3) 人と人をつなぐ仕組みづくり

コミュニケーションツールは、世代によって利用状況が異なっていること、いざという時の危機管理面も考慮し、1つのツールに固定するのではなく多様なツールを併用すべきである。多くの情報がさくそうしている今日の社会において、富海住民にとって真に有益な情報を厳選し、タイミングよくコンスタントに発信することが大切である。あわせて、一方的な情報発信だけでなく、誰もが気軽に情報のやりとりができる仕組みも大切である。なお、インターネット回線の整備は、情報通信の基盤であり回線業者への要望が必要である。

イベントについては、まちのにぎわいの創出につながる一面もあるが、イベントの担い手が限られており、様々な役割が負担となっている一面もある。運営のスリム化や外部団体との連携等も検討すべきである。

アンケートからは、住民が協力できることはしたいということが分かる。平素の見守りが重要と考える意見も多く、日常的な温かいつながりづくりが大切である。世代と世代をつなぐ機会や、誰でも気軽に集まることができる場所（沙龙的なもの）の充実も重要である。現在、サークル・教室などの活動は女性の参加が多く、男性は少ない。このため、男性も積極的に参加できる活動も必要である。

（４）環境保全と地域資源の活用

富海の魅力の第一は海や山など豊かな自然環境と考える意見が多い。また、温暖な気候も住みやすさにつながっている。さらに歴史的な史跡も点在しており、これらの魅力を住民自身が再認識し、大切な地域資源という意識を共有したい。そのためにも魅力を内外に発信することが大切であり、広報誌やHPなどを活用して認知を図ることが必要である。

環境保全は、SDGs（持続可能な開発目標）が叫ばれる中、富海地域だけでなく世界的な課題でもある。身近な環境保全のために一人ひとりが環境保全に関心をもち、具体的な行動に移すことが大切である。

（５）定住促進（空き家対策）

交通の利便性もあり地域資源に恵まれた富海地域であるが、世代交代に伴う空き家の増加が課題となっている。自由記述には空き家の有効活用についての意見も多い。空き家には旧街道の趣を持つ建物や、眺望のよい立地のものなど、空き家を負の遺産とするのではなく、効果的にリノベーションを行うなど付加価値をもたせることができるとよい。空き家の貸し借りを仲介するコーディネーター機能が必要である。

（６）育児・教育環境の充実

子育て世代にとって、育児・教育環境が整っていることは非常に大切である。とのみ保育所や富海小中学校の教育活動の充実に期待する意見も多い。地域の教育施設として、地域全体で教育活動を支える仕組みづくりが重要である。登下校の見守りが大切という意見も多く、地域の教育への関心は高いことから、様々な機会を通じて保育所・学校と地域がつながる機会の充実を図ることが必要である。学校教育に関しては、県全体でコミュニティ・スクールの充実を推進しており、学校を核とした地域づくりも地域の活性化に向けての重要な項目である。

（７）高齢者の不安解消は地域活性化そのもの

アンケート結果から高齢になるほど、体力の低下や健康面の理由から、「農地や山林の管理」、「空き家の増加」、「買い物や通院等の交通手段の確保」、「有害鳥獣の被害」、「家族の介護」等の不安を感じる割合が高くなっている。また、高齢者が今後やってみたいことの上位には「草刈り・河川清掃などの環境保全活動」、「サークル・教室など、生涯学習や健康づくり」、「近所の清掃やごみ出し等の手伝い」、「避難訓練などの消防、防災活動」、「運動会、ホテル祭りなどのイベントへの参加」など、自分だけではなく、人と交わり、健康づくり、地域づくりへの関心が高いことがわかった。

高齢者の割合が高い富海地域においては、こうした不安の解消と、人との交流、健康づくりや地域づくりへの取り組みこそが、地域の活性化につながるとも考えられる。世代を越えて、高齢者と交流する中から困っていることや不安を共有し、相互に助け合い・支え合う関係づくりを進めていくことにより、若い世代にとっても富海地域に住んで将来の生活に安心感を抱くことができると考えられる。

(8) 住民ニーズの適切な把握と具体的な方策への手立て

今回のアンケートから、地域活性化協議会のあり方についても多くの記述が見られた。協議会がどのような活動をしているのかよくわからない等、協議会の活動そのものの周知が不足していた一面も明らかになった。これまでに取り組んだことの情報発信の工夫、住民のニーズに直結した具体的な取り組みが期待される面も大きいと考えられる。協議会の会議の公開、専門家によるアドバイスを受けるなど開かれた協議会運営が必要である。

以上